

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第321集

熊谷市

飯塚北Ⅱ／飯塚古墳群Ⅱ

妻沼西部工業団地造成事業用地内
埋蔵文化財発掘調査報告

—Ⅱ—

<第1分冊>

2006

埼玉県

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



飯塚北遺跡 第75号土坑遺物出土状況



第75号土坑



第75号土坑



第90号土坑



第75号土坑



第3号性格不明遺構



飯塚古墳群全景

序

埼玉県北部地域は利根川を境として群馬県と接し、本県の北の玄関口として広域交通の要衝になっています。昨年10月には熊谷市・妻沼町・大里町の1市2町が合併し、県北では最大の人口を有する新しい熊谷市が誕生しました。

新熊谷市となった旧妻沼町には、群馬県と通じる国道407号が通り交通の利便性が高いことから、更なる地域経済の活性化と雇用の創出を図るため妻沼西部工業団地の造成事業が計画されました。

事業地内には周知の埋蔵文化財包蔵地として飯塚北遺跡・飯塚古墳群があり、その取扱いについて、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課（当時）が関係諸機関と慎重に協議を重ねてまいりましたが、やむを得ず記録保存の措置を講じることとなりました。発掘調査は、埼玉県企業局の委託を受けて当事業団が実施しました。

今回の調査の結果、飯塚古墳群では大量の円筒埴輪が出土し、ガラス玉などが副葬されていました。飯塚北遺跡からは既に報告書としてまとめた弥生時代の再葬墓や奈良・平安時代の竪穴住居跡の他に掘立柱建物跡・土坑などの遺構が多数発見されており、この一帯が奈良・平安時代の大規模な集落跡の一部であることが明らかになりました。竪穴住居跡だけでなく掘立柱建物跡や土坑などからも、土師器・須恵器などの土器類の他に灰釉陶器・緑釉陶器という愛知、岐阜方面で生産された古代の陶器が出土し、当地域の歴史を解明する上で貴重な発見となりました。

本書は、これらの発掘調査の成果をまとめたものであります。埋蔵文化財の保護・普及啓発の資料として、また学術研究の基礎資料として広く活用していただければ幸いです。

本書の刊行にあたり、発掘調査に関する諸調整に御尽力いただきました埼玉県教育局生涯学習部生涯学習文化財課をはじめ、埼玉県企業局、旧妻沼町教育委員会、熊谷市教育委員会並びに地元関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成18年3月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

理事長 福田 陽 充

例言

- 1 本書は、埼玉県大里郡妻沼町（現熊谷市）大字永井太田1,531番地他に所在する飯塚北遺跡と飯塚古墳群の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の略号と代表地番及び発掘調査に対する指示通知は以下のとおりである。

飯塚北遺跡（I I Z K K T）
埼玉県大里郡妻沼町（現熊谷市）大字永井太田1,531番地他
平成9年4月25日付け教文第2-7号
平成10年4月24日付け教文第2-3号
平成11年4月14日付け教文第2-3号

飯塚古墳群（I I Z K 古）
埼玉県大里郡妻沼町（現熊谷市）大字永井太田1,531番地他
平成9年4月25日付け教文第2-8号
平成10年4月24日付け教文第2-2号

埼玉県大里郡妻沼町（現熊谷市）大字飯塚字悪戸1,554他
平成15年11月11日付け教文第2-56号
- 3 発掘調査は、妻沼西部工業団地造成事業に伴う事前調査であり、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課（当時）が調整し、埼玉県の委託を受け、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
- 4 本事業は、第1章の組織により実施した。本事業の発掘調査については利根川章彦・山本禎・細田勝・川島健・岩瀬譲・西井幸雄・吉田稔・書上元博・末木啓介・岩田明広・中山浩彦・村田章人・大谷宏治が担当し、平成9年4月1日から平成10年9月30日まで、平成11年4月1日から平成11年8月31日まで実施した。整理・報告書作成事業は、山本禎・細田勝・福田聖が担当し、平成12年4月10日から平成13年3月23日まで、平成13年11月1日から平成14年3月22日まで、平成14年4月8日から平成14年8月31日まで、平成15年4月8日から平成15年8月29日まで、平成16年4月8日から平成17年3月24日まで、平成17年4月8日から平成18年3月24日まで数次に亘って実施した。
- 5 遺跡の基準点測量・空中写真撮影は、株式会社シン技術コンサルに委託した。
- 6 写真は、発掘調査時の撮影を各担当者が行い、遺物の撮影は大屋道則・山本が行った。
- 7 出土品の整理・図版の作成は、山本が行い、中嶋淳子・成田由紀子の協力を得た。金属製品については、瀧瀬芳之が行った。緑釉・灰釉陶器の産地比定は、中畑遺跡を参考として田中広明が行った。
- 8 本書の執筆は、山本が行い、I-Iを埼玉県教育局生涯学習部生涯学習文化財課が行った。
- 9 本書の編集は、山本が行った。
- 10 本書に掲載した資料は、平成18年度以降、埼玉県立埋蔵文化財センターが管理・保管する。
- 11 発掘調査から報告書の刊行まで下記の方々に御教示・御協力を賜った。記して感謝の意を表します。

荒川正夫 池田敏宏
熊谷市教育委員会（旧妻沼町教育委員会）
(敬称略)

凡 例

- 1 本書中におけるX・Yの数値は、世界測地系(旧測地系)による平面直角座標第IX系(原点:北緯36度00分00秒、東経139度50分00秒)に基づく各座標値(m)を示す。また、各挿図における方位は、全て座標北を示す。
- 2 遺跡におけるグリッドの設置は、国土標準平面直各座標第IX系に基づいて設置しており、10m×10mの方眼である。
- 3 グリッドの名称は、遺跡ごとに北西杭を基準として、東西方向は西から東へ1、2、3…、南北方向は北から南へA、B、C…と付けている。
(例 A-2グリッド)
- 4 本書の遺構の略号は以下のとおりである。

S J	竪穴住居跡	S B	掘立柱建物跡
S K	土坑	S E	井戸跡
S D	溝跡	S F	火葬土坑
S S	古墳	S X	性格不明遺構
- 5 本書の挿図の縮尺は、原則として以下のとおりである。

遺構	全体図	……………	1 : 400
	住居跡	……………	1 : 60
	掘立柱建物跡・溝跡	……………	1 : 80
	土坑・井戸跡・火葬土坑	…	1 : 60
	溝跡断面	……………	1 : 40
	古墳跡	…	1 : 160 (遺構図)
			1 : 80 (断面図)
			1 : 40 (石室・遺物出土状況)
遺物	土器・石器	…	1 : 4
	石鏃	……………	2 : 3
	土錘	……………	1 : 3
	金属製品	……	1 : 2
	埴輪	……	1 : 5 (円筒埴輪)
			1 : 4 (形象埴輪・拓影図)
- 6 須恵器は、断面を黒塗りしてあるが、酸化焙焼成となっているものは塗っていない。また、緑釉・灰釉陶器については、施釉範囲を網かけで示した。
網は、灰釉5%、緑釉20%、各陶器断面40%、自然釉5%、黒色土器30%、油煙60%、羽口還元範囲10%、羽口ガラス質30%である。
- 7 遺構図における水平数値は、海拔高度を示しており、単位はmである。
- 8 遺物観察表・埴輪観察表は次のとおりである。
 - ・口径・器高・底径は、cmを単位とする。
 - ・()の数値は復元値、〈 〉は残存値である。
 - ・胎土は肉眼で観察できるものを次のように示した。
A : 白色粒子 B : 角閃石 C : 石英
D : 雲母 E : 長石 F : 赤色粒子
G : 黒色粒子 H : 白色針状物質 I : 片岩
J : 砂粒 K : 小礫
 - ・色調は、『新版標準土色帖』1998年版(農林水産省水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修)を基に表記した。
 - ・焼成は、良好・普通・不良の3段階に分けた。埴輪の焼成は、器面の観察から更に下記のとおり分類した。
硬質 普通 軟質
 - ・埴輪の外面調整及び内面調整は器表面の主体的な調整法を記し、円筒埴輪のハケメの項目の中でタテ、ヨコはハケメの方向を表す。数値は2cmの幅の中に確認できるハケメの本数を記した。
 - ・円筒埴輪の基部粘土板の重ね合わせは、埴輪を正立させた場合に、基部を右回りに接合させたものをR接合とし、左回りに接合させたものをL接合とした。
- 9 本書に掲載した地形図は、国土地理院発行の1/50,000地形図と妻沼町都市計画図1/10,000を使用した。

目次

口絵
序
例言
凡例
目次

I 発掘調査の概要	1	(8) 溝跡	268
1 発掘調査に至るまでの経過	1	(9) 性格不明遺構	312
2 発掘調査・報告書作成の経過	2	(10) グリッド出土・表採遺物	315
3 発掘調査・整理・報告書刊行の組織	4	(11) 補遺	320
II 遺跡の立地と環境	7	V 飯塚古墳群	323
III 遺跡の概要	11	1 遺跡の概要	323
IV 飯塚北遺跡	13	2 遺構と遺物	325
1 遺跡の概要	13	(1) 古墳跡	325
2 遺構と遺物	14	(2) 土坑	401
(1) 住居跡	14	(3) 井戸跡	406
(2) 掘立柱建物跡	64	(4) 溝跡	409
(3) 土坑	102	(5) 性格不明遺構	411
(4) 井戸跡	232	(6) グリッド出土・表採遺物	412
(5) 木棺墓	254	VI まとめ	415
〈第2分冊〉		写真図版	
(6) 土坑墓	261	付図	
(7) 火葬土坑	263		

挿 図 目 次

〈第1分冊〉

第1図	埼玉県の地形	7	第34図	第305号住居跡	37
第2図	周辺の遺跡	8・9	第35図	第305号住居跡出土遺物	38
第3図	調査区周辺の地形	12	第36図	第305号住居跡出土遺物	39
〈飯塚北遺跡〉					
第4図	第278号住居跡	14	第37図	第307号住居跡・出土遺物	40
第5図	第278号住居跡出土遺物	15	第38図	第308号住居跡	41
第6図	第279号住居跡	15	第39図	第308号住居跡出土遺物	41
第7図	第280号住居跡・出土遺物	16	第40図	第309号住居跡	42
第8図	第281号住居跡	16	第41図	第309号住居跡出土遺物	43
第9図	第281号住居跡出土遺物	17	第42図	第310号住居跡出土遺物	43
第10図	第284・306号住居跡	18	第43図	第310号住居跡	44
第11図	第284号住居跡出土遺物	19	第44図	第311・317号住居跡	45
第12図	第306号住居跡出土遺物	20	第45図	第311号住居跡出土遺物	46
第13図	第306号住居跡出土遺物	21	第46図	第313・319・322号住居跡	47
第14図	第287・288号住居跡	22	第47図	第313号住居跡出土遺物	48
第15図	第287号住居跡出土遺物	23	第48図	第319号住居跡出土遺物	49
第16図	第288号住居跡出土遺物	24	第49図	第322号住居跡出土遺物	50
第17図	第290号住居跡	24	第50図	第314号住居跡	51
第18図	第290号住居跡出土遺物	25	第51図	第314号住居跡出土遺物	51
第19図	第291号住居跡	26	第52図	第315号住居跡	52
第20図	第291号住居跡出土遺物	27	第53図	第315号住居跡出土遺物	53
第21図	第293号住居跡	27	第54図	第316号住居跡	53
第22図	第293号住居跡出土遺物	28	第55図	第316号住居跡出土遺物	54
第23図	第294号住居跡・出土遺物	28	第56図	第318号住居跡	54
第24図	第296号住居跡	29	第57図	第320号住居跡出土遺物	54
第25図	第296号住居跡出土遺物	30	第58図	第320号住居跡	55
第26図	第297号住居跡	30	第59図	第323号住居跡	56
第27図	第297号住居跡出土遺物	31	第60図	第323号住居跡出土遺物	57
第28図	第298号住居跡	32	第61図	第324号住居跡	58
第29図	第298号住居跡出土遺物	33	第62図	第324号住居跡出土遺物	58
第30図	第301号住居跡出土遺物	33	第63図	第325・326号住居跡	59
第31図	第301号住居跡	34	第64図	第327号住居跡	60
第32図	第302号住居跡	35	第65図	第327号住居跡出土遺物	60
第33図	第302号住居跡出土遺物	36	第66図	第328号住居跡	61
			第67図	第328号住居跡出土遺物	61

第68区	第329号住居跡	62	第104区	第24号掘立柱建物跡出土遺物	89
第69区	第329号住居跡出土遺物	63	第105区	第27号掘立柱建物跡・出土遺物	90
第70区	第331号住居跡	63	第106区	第28・30号掘立柱建物跡	91
第71区	第331号住居跡出土遺物	64	第107区	第29号掘立柱建物跡	92
第72区	第1・2・3号掘立柱建物跡	65	第108区	第31号掘立柱建物跡	93
第73区	第4号掘立柱建物跡	66	第109区	第31号掘立柱建物跡出土遺物	94
第74区	第4号掘立柱建物跡出土遺物	67	第110区	第32号掘立柱建物跡	95
第75区	第5号掘立柱建物跡	68	第111区	第33・34・36号掘立柱建物跡	96
第76区	第7号掘立柱建物跡	69	第112区	第34号掘立柱建物跡出土遺物	97
第77区	第7号掘立柱建物跡出土遺物	70	第113区	第37号掘立柱建物跡	97
第78区	第8号掘立柱建物跡出土遺物	70	第114区	第38号掘立柱建物跡	98
第79区	第8号掘立柱建物跡	71	第115区	第38号掘立柱建物跡出土遺物	98
第80区	第9 a・9 b号掘立柱建物跡 (1)		第116区	第39号掘立柱建物跡	99
	72	第117区	第40号掘立柱建物跡	100
第81区	第9 a・9 b号掘立柱建物跡 (2)		第118区	第41号掘立柱建物跡	101
	73	第119区	土坑 (1)	103
第82区	第9号掘立柱建物跡出土遺物	73	第120区	土坑出土遺物 (1)	104
第83区	第10号掘立柱建物跡	74	第121区	第49号土坑出土遺物	105
第84区	第10号掘立柱建物跡出土遺物	75	第122区	土坑出土遺物 (2)	106
第85区	第11号掘立柱建物跡	76	第123区	土坑 (2)	108
第86区	第11号掘立柱建物跡出土遺物	76	第124区	土坑出土遺物 (3)	109
第87区	第12号掘立柱建物跡	77	第125区	土坑出土遺物 (4)	110
第88区	第12号掘立柱建物跡出土遺物	78	第126区	第75号土坑	111
第89区	第13号掘立柱建物跡	78	第127区	第75号土坑出土遺物	112
第90区	第13号掘立柱建物跡出土遺物	79	第128区	土坑 (3)	114
第91区	第15号掘立柱建物跡	80	第129区	土坑出土遺物 (5)	115
第92区	第15号掘立柱建物跡出土遺物	80	第130区	土坑出土遺物 (6)	116
第93区	第16号掘立柱建物跡	81	第131区	土坑出土遺物 (7)	117
第94区	第16号掘立柱建物跡出土遺物	81	第132区	土坑 (4)	119
第95区	第17号掘立柱建物跡	82	第133区	土坑出土遺物 (8)	120
第96区	第18・19号掘立柱建物跡	83	第134区	土坑出土遺物 (9)	121
第97区	第19号掘立柱建物跡出土遺物	84	第135区	土坑出土遺物 (10)	122
第98区	第20・21号掘立柱建物跡	85	第136区	土坑 (5)	123
第99区	第21号掘立柱建物跡出土遺物	86	第137区	土坑出土遺物 (11)	125
第100区	第22号掘立柱建物跡	86	第138区	土坑出土遺物 (12)	126
第101区	第22号掘立柱建物跡出土遺物	87	第139区	土坑 (6)	127
第102区	第23号掘立柱建物跡	87	第140区	土坑出土遺物 (13)	128
第103区	第24・26号掘立柱建物跡	88	第141区	土坑 (7)	129

第142图	土坑出土遗物 (14)	131	第180图	土坑 (19)	177
第143图	土坑出土遗物 (15)	132	第181图	土坑出土遗物 (31)	178
第144图	土坑 (8)	133	第182图	土坑出土遗物 (32)	179
第145图	土坑出土遗物 (16)	134	第183图	土坑 (20)	180
第146图	第180号土坑出土遗物	135	第184图	土坑出土遗物 (33)	182
第147图	第186号土坑出土遗物	136	第185图	土坑 (21)	184
第148图	土坑 (9)	137	第186图	土坑出土遗物 (34)	185
第149图	土坑出土遗物 (17)	138	第187图	第465号土坑出土遗物 (1)	186
第150图	第192号土坑出土遗物	139	第188图	第465号土坑出土遗物 (2)	187
第151图	第193号土坑出土遗物 (1)	140	第189图	第465号土坑出土遗物 (3)	188
第152图	第193号土坑出土遗物 (2)	141	第190图	土坑 (22)	191
第153图	土坑出土遗物 (18)	142	第191图	土坑出土遗物 (35)	192
第154图	土坑 (10)	144	第192图	土坑 (23)	194
第155图	第200号土坑出土遗物	145	第193图	土坑出土遗物 (36)	195
第156图	土坑出土遗物 (19)	146	第194图	土坑出土遗物 (37)	196
第157图	第208号土坑出土遗物	147	第195图	土坑 (24)	198
第158图	土坑出土遗物 (20)	148	第196图	土坑出土遗物 (38)	199
第159图	土坑 (11)	150	第197图	土坑 (25)	200
第160图	第219号土坑出土遗物	151	第198图	土坑出土遗物 (39)	202
第161图	第220号土坑出土遗物 (1)	152	第199图	土坑出土遗物 (40)	203
第162图	第220号土坑出土遗物 (2)	153	第200图	土坑 (26)	204
第163图	土坑出土遗物 (21)	154	第201图	土坑出土遗物 (41)	205
第164图	土坑 (12)	156	第202图	土坑 (27)	207
第165图	土坑出土遗物 (22)	157	第203图	土坑出土遗物 (42)	208
第166图	土坑出土遗物 (23)	158	第204图	土坑 (28)	210
第167图	土坑 (13)	159	第205图	土坑出土遗物 (43)	211
第168图	土坑出土遗物 (24)	161	第206图	土坑 (29)	213
第169图	土坑出土遗物 (25)	162	第207图	土坑出土遗物 (44)	214
第170图	土坑 (14)	163	第208图	第1087号土坑出土遗物 (1)	215
第171图	土坑出土遗物 (26)	164	第209图	第1087号土坑出土遗物 (2)	216
第172图	土坑 (15)	166	第210图	第3·4·6号井戸跡出土遗物	232
第173图	土坑出土遗物 (27)	167	第211图	井戸跡 (1)	233
第174图	土坑 (16)	169	第212图	井戸跡 (2)	234
第175图	土坑出土遗物 (28)	170	第213图	第7号井戸跡出土遗物 (1)	235
第176图	土坑 (17)	171	第214图	第7号井戸跡出土遗物 (2)	236
第177图	土坑出土遗物 (29)	172	第215图	井戸跡 (3)	238
第178图	土坑 (18)	174	第216图	第9·10号井戸跡出土遗物	239
第179图	土坑出土遗物 (30)	175	第217图	第11号井戸跡出土遗物	240

第218図	井戸跡 (4)	242	第250図	第3号溝出土遺物 (2)	276
第219図	第12・13・17号井戸跡出土遺物	243	第251図	第6号溝 (1)	277
第220図	第19・21・22・24号井戸跡出土遺物	244	第252図	第6号溝 (2)	278
第221図	井戸跡 (5)	245	第253図	第6号溝 (3)	279
第222図	井戸跡 (6)	246	第254図	第6号溝出土遺物	280
第223図	第25・31・33・36号井戸跡出土遺物	247	第255図	第7号溝	282
第224図	第26号井戸跡	248	第256図	第7号溝出土遺物 (1)	283
第225図	第26号井戸跡出土遺物	249	第257図	第7号溝出土遺物 (2)	284
第226図	井戸跡 (8)	250	第258図	第9・10・11・14号溝出土遺物	285
第227図	第37・38・39号井戸跡出土遺物	251	第259図	第15号溝	286
第228図	井戸跡 (9)	252	第260図	第15号溝出土遺物	287
第229図	第40・41・45号井戸跡出土遺物	253	第261図	第19・27号溝	288
第230図	第1号木棺墓	254	第262図	第19号溝出土遺物	289
第231図	第1号木棺墓出土遺物 (1)	255	第263図	第27号溝出土遺物	290
第232図	第1号木棺墓出土遺物 (2)	256	第264図	第20号溝	291
第233図	第1号木棺墓出土遺物 (3)	257	第265図	第20・21号溝出土遺物	292
第234図	第1号木棺墓出土遺物 (4)	258	第266図	第24・25・31号溝出土遺物	293
〈第2分冊〉			第267図	第41号溝	294
第235図	第2号土坑墓出土遺物	261	第268図	第41号溝出土遺物	294
第236図	土坑墓	262	第269図	第42・47・48・51号溝出土遺物	295
第237図	火葬土坑 (1)	264	第270図	第53~70号溝出土遺物	297
第238図	火葬土坑 (2)	265	第271図	第71号溝	298
第239図	火葬土坑 (3)	266	第272図	第71号溝出土遺物 (1)	299
第240図	火葬土坑 (4)	267	第273図	第71号溝出土遺物 (2)	300
第241図	火葬土坑出土遺物	268	第274図	第72号溝 (1)	302
第242図	第1号溝	269	第275図	第72号溝 (2)	303
第243図	第1号溝出土遺物	269	第276図	第72号溝出土遺物 (1)	304
第244図	第3号溝 (1)	270	第277図	第72号溝出土遺物 (2)	305
第245図	第3号溝 (2)	271	第278図	第73・74号溝出土遺物	306
第246図	第3号溝 (3)	272	第279図	第78号溝 (1)	307
第247図	第3号溝 (4)	273	第280図	第78号溝 (2)	308
第248図	第3号溝 (5)	274	第281図	第78号溝出土遺物	309
第249図	第3号溝出土遺物 (1)	275	第282図	第79・83・93号溝出土遺物	310
			第283図	第3号性格不明遺構	313
			第284図	第3号性格不明遺構出土遺物	314
			第285図	グリッド出土・表探遺物 (1)	316

第286図	グリッド出土・表採遺物(2)	317
第287図	グリッド出土・表採遺物(3)	318
第288図	第11号住居跡・出土遺物	320
第289図	第62号住居跡・出土遺物	321
第290図	第63号住居跡	322
第291図	第63号住居跡出土遺物	322
(飯塚古墳群)		
第292図	飯塚古墳群全測図	323
第293図	第1号墳	325
第294図	第2号墳(1)	325
第295図	第2号墳(2)	326
第296図	第3号墳	327
第297図	第4号墳(1)	328
第298図	第4号墳(2)	329
第299図	第4号墳(3)	330
第300図	第4号墳遺物出土状況	331
第301図	第4号墳主体部	332
第302図	第4号墳石室	334
第303図	第4号墳玉・鉄器・歯出土状況	335
第304図	第4号墳出土遺物	336
第305図	第5号墳	338
第306図	第5号墳出土遺物	339
第307図	第6号墳	339
第308図	第7号墳遺物出土状況見取図	339
第309図	第7号墳	340
第310図	第7号墳遺物出土状況(1)	341
第311図	第7号墳遺物出土状況(2)	342
第312図	第7号墳出土円筒埴輪(1)	344
第313図	第7号墳出土円筒埴輪(2)	345
第314図	第7号墳出土円筒埴輪(3)	346
第315図	第7号墳出土円筒埴輪(4)	347
第316図	第7号墳出土円筒埴輪(5)・土器	348
第317図	第8号墳	349
第318図	第9号墳遺物出土状況見取図	350
第319図	第9号墳(1)	350
第320図	第9号墳(2)・第6号土坑	351
第321図	第9号墳出土遺物状況(1)	352

第322図	第9号墳出土遺物状況(2)	353
第323図	第9号墳出土遺物状況(3)	354
第324図	第9号墳出土遺物	355
第325図	第9号墳出土円筒埴輪(1)	356
第326図	第9号墳出土円筒埴輪(2)	357
第327図	第9号墳出土円筒埴輪(3)	358
第328図	第9号墳出土円筒埴輪(4)	359
第329図	第9号墳出土円筒埴輪(5)	360
第330図	第9号墳出土円筒埴輪(6)	361
第331図	第9号墳出土円筒埴輪(7)	362
第332図	第9号墳出土円筒埴輪(8)	363
第333図	第9号墳出土円筒埴輪(9)	366
第334図	第9号墳出土円筒埴輪(10)	367
第335図	第9号墳出土円筒埴輪(11)	368
第336図	第6号土坑出土遺物	370
第337図	第10号墳(1)	371
第338図	第10号墳(2)	372
第339図	第10号墳(3)	373
第340図	第10号墳石室	374
第341図	第10号墳石室内遺物出土状況見取図 ・遺物出土状況(1)	375
第342図	第10号墳遺物出土状況(2)	376
第343図	第10号墳出土遺物	377
第344図	第11号墳(1)	381
第345図	第11号墳(2)	382
第346図	第11号墳出土遺物	383
第347図	第12号墳・出土遺物	384
第348図	第13号墳	385
第349図	第14号墳(1)	386
第350図	第14号墳(2)	387
第351図	第14号墳石室	388
第352図	第14号墳出土遺物	388
第353図	第15号墳	389
第354図	第15号墳・石室	390
第355図	第15号墳出土遺物	391
第356図	第16号墳(1)	392
第357図	第16号墳(2)	393
第358図	第16号墳出土遺物	393

第359図	第17号墳	394	第374図	第6号溝(1)	410
第360図	第17号墳出土遺物	395	第375図	第6号溝(2)	411
第361図	第18号墳	396	第376図	第1号性格不明遺構出土遺物	411
第362図	第18号墳出土円筒埴輪	397	第377図	第1号性格不明遺構	412
第363図	第19号墳	397	第378図	グリッド出土・表探遺物(1)	413
第364図	第21号墳	398	第379図	グリッド出土・表探遺物(2)	414
第365図	第21号墳主体部・出土遺物	398	第380図	飯塚北遺跡第I期の土器	416
第366図	円筒埴輪凡例図	399	第381図	飯塚北遺跡第II期の土器(1)	417
第367図	土坑(1)	402	第382図	飯塚北遺跡第II期の土器(2)	418
第368図	土坑(2)	404	第383図	飯塚北遺跡第III期の土器	418
第369図	土坑(3)	405	第384図	飯塚北遺跡第IV期の土器	419
第370図	井戸跡(1)	407	第385図	飯塚北遺跡第V期の土器(1)	420
第371図	井戸跡(2)	408	第386図	飯塚北遺跡第V期の土器(2)	421
第372図	第11号井戸跡出土遺物	408	第387図	飯塚北遺跡第VI期の土器	422
第373図	第6号溝出土遺物	409			

図版目次

〈第2分冊〉

〈飯塚北遺跡〉

図版1	遺跡全景	第305号住居跡カマド遺物出土状況
図版2	第278号住居跡 第281号住居跡 第284・306号住居跡 第284号住居跡遺物出土状況 第284号住居跡カマド遺物出土状況 第290号住居跡 第290号住居跡カマド 第291・296号住居跡	第306号住居跡 第307号住居跡 第308・309号住居跡 第309号住居跡遺物出土状況
図版3	第293号住居跡 第294号住居跡 第296号住居跡カマド遺物出土状況 第297号住居跡 第298号住居跡 第298号住居跡カマド 第301号住居跡 第301号住居跡カマド遺物出土状況	図版5 第310号住居跡 第311号住居跡 第311号住居跡カマド 第313・319・322・323号住居跡 第313号住居跡 第313号住居跡カマド 第313号住居跡遺物出土状況 第314号住居跡
図版4	第302号住居跡 第302号住居跡カマド 第305号住居跡	図版6 第314号住居跡カマド遺物出土状況 第314号住居跡貯蔵穴 第315号住居跡 第319号住居跡 第320号住居跡 第320号住居跡カマド 第322号住居跡

図版7	第322号住居跡カマド遺物出土状況 第323号住居跡 第323号住居跡遺物出土状況 第324・325・326号住居跡 第324号住居跡 第327号住居跡 第328号住居跡 第328号住居跡カマド	第66号土坑 第68号土坑 第69号土坑 第70号土坑
図版8	第329号住居跡 第331号住居跡 第1号掘立柱建物跡 第2・3号掘立柱建物跡 第4号掘立柱建物跡 第7・8号掘立柱建物跡 第7・8・9号掘立柱建物跡 第10号掘立柱建物跡	図版13 第75号土坑 第75号土坑遺物出土状況 第78・82号土坑 第79号土坑 第81号土坑 第90号土坑 第90・97号土坑 第92号土坑
図版9	第11号掘立柱建物跡 第12号掘立柱建物跡 第13号掘立柱建物跡 第15号掘立柱建物跡 第16号掘立柱建物跡 第17号掘立柱建物跡 第18号掘立柱建物跡 第19号掘立柱建物跡	図版14 第100号土坑 第103号土坑 第117・127号土坑 第124号土坑 第125号土坑 第128号土坑 第150号土坑 第166号土坑
図版10	第21号掘立柱建物跡 第19・20・21号掘立柱建物跡 第22号掘立柱建物跡 第23号掘立柱建物跡 第24・26号掘立柱建物跡 第27・28・30号掘立柱建物跡 第29・32号掘立柱建物跡 第31号掘立柱建物跡	図版15 第180・193号土坑 第180・193号土坑遺物出土状況 第181号土坑 第186号土坑 第194号土坑 第195号土坑 第200号土坑 第202・208号土坑
図版11	第33・34号掘立柱建物跡 第36号掘立柱建物跡 第37号掘立柱建物跡 第38号掘立柱建物跡 第40号掘立柱建物跡 第25号土坑 第47号土坑 第48号土坑	図版16 第207号土坑 第208号土坑 第218号土坑 第219号土坑 第220号土坑 第224・225号土坑 第229号土坑 第232号土坑
図版12	第49号土坑 第50号土坑 第51号土坑 第63号土坑	図版17 第247号土坑 第248号土坑 第259・261・262号土坑 第298・363号土坑 第323号土坑 第435・436号土坑 第435号土坑遺物出土状況 第445・519号土坑
		図版18 第456号土坑 第463・464号土坑 第463号土坑遺物出土状況 第463号土坑遺物出土状況 第465号土坑 第465号土坑遺物出土状況 第482号土坑 第526号土坑
		図版19 第650号土坑 第651号土坑 第740号土坑 第757号土坑 第757号土坑遺物出土状況 第759号土坑 第760・771号土坑 第860号土坑
		図版20 第1087号土坑 第2・3号井戸跡

- 第6号井戸跡
第6号井戸跡遺物出土状況
- 第7号井戸跡 第17号井戸跡
第19号井戸跡 第26号井戸跡
- 図版21 第26号井戸跡 第31号井戸跡
第36号井戸跡 第37号井戸跡
第38号井戸跡 第39号井戸跡
第1号木棺墓
- 第1号木棺墓遺物出土状況
- 図版22 第1号木棺墓 第1号土坑墓
第3号土坑墓 第5号土坑墓
第5号土坑墓遺物出土状況
- 第1号火葬土坑 第2号火葬土坑
第3号火葬土坑
- 図版23 第4号火葬土坑 第5号火葬土坑
第8号火葬土坑 第10号火葬土坑
第11号火葬土坑 第12号火葬土坑
第13号火葬土坑 第1号溝
- 図版24 第3号溝 第3号溝遺物出土状況
第3・6号溝 第15号溝 第20号溝
第41号溝 第71号溝
第71号溝遺物出土状況
- 図版25 第72号溝 第72号溝遺物出土状況
第78号溝 第3号性格不明遺構
第3号性格不明遺構遺物出土状況
- 図版26 第284号住居跡出土遺物
第287号住居跡出土遺物
第288号住居跡出土遺物
第290号住居跡出土遺物
第291号住居跡出土遺物
第298号住居跡出土遺物
- 図版27 第301号住居跡出土遺物
第302号住居跡出土遺物
第305号住居跡出土遺物
第309号住居跡出土遺物
第310号住居跡出土遺物
第314号住居跡出土遺物
- 図版28 第315号住居跡出土遺物
- 第319号住居跡出土遺物
第320号住居跡出土遺物
第322号住居跡出土遺物
第323号住居跡出土遺物
第324号住居跡出土遺物
第329号住居跡出土遺物
第331号住居跡出土遺物
- 図版29 第284号住居跡出土遺物
第296号住居跡出土遺物
第305号住居跡出土遺物
第309号住居跡出土遺物
- 図版30 第305号住居跡出土遺物
第306号住居跡出土遺物
- 図版31 第306号住居跡出土遺物
- 図版32 第309号住居跡出土遺物
第313号住居跡出土遺物
第319号住居跡出土遺物
第62号住居跡出土遺物
- 図版33 第4号掘立柱建物跡出土遺物
第13号掘立柱建物跡出土遺物
第47号土坑出土遺物
第75号土坑出土遺物
第76号土坑出土遺物
第80号土坑出土遺物
第81号土坑出土遺物
- 図版34 第83号土坑出土遺物
第90号土坑出土遺物
第97号土坑出土遺物
第98号土坑出土遺物
第117号土坑出土遺物
第124号土坑出土遺物
第149号土坑出土遺物
- 図版35 第149号土坑出土遺物
第186号土坑出土遺物
第193号土坑出土遺物
第200号土坑出土遺物
第202号土坑出土遺物
第208号土坑出土遺物

- 図版36 第208号土坑出土遺物
第218号土坑出土遺物
第220号土坑出土遺物
- 図版37 第220号土坑出土遺物
第229号土坑出土遺物
第234号土坑出土遺物
第240号土坑出土遺物
第248号土坑出土遺物
第271号土坑出土遺物
第274号土坑出土遺物
第298号土坑出土遺物
- 図版38 第363号土坑出土遺物
第400号土坑出土遺物
第444号土坑出土遺物
第452号土坑出土遺物
第456号土坑出土遺物
第461号土坑出土遺物
- 図版39 第482号土坑出土遺物
第532号土坑出土遺物
第554号土坑出土遺物
第649号土坑出土遺物
第717号土坑出土遺物
第748号土坑出土遺物
第749号土坑出土遺物
- 図版40 第749号土坑出土遺物
第751号土坑出土遺物
第754号土坑出土遺物
第759号土坑出土遺物
第795号土坑出土遺物
第6号井戸跡出土遺物
第7号井戸跡出土遺物
第11号井戸跡出土遺物
第13号井戸跡出土遺物
- 図版41 第39号井戸跡出土遺物
第1号木棺墓出土遺物
- 図版42 第1号木棺墓出土遺物
第15号溝出土遺物 第19号溝出土遺物
第20号溝出土遺物 第27号溝出土遺物
- 図版43 第41号溝出土遺物 第67号溝出土遺物
第70号溝出土遺物 第71号溝出土遺物
- 図版44 第71号溝出土遺物 第72号溝出土遺物
- 図版45 第72号溝出土遺物
- 図版46 第72号溝出土遺物 第79号溝
第93号溝出土遺物
第3号性格不明遺構出土遺物
- 図版47 第3号性格不明遺構出土遺物
A-11グリッド出土遺物
L-12グリッド出土遺物
L-14グリッド出土遺物
O-14グリッド出土遺物
R-21グリッド出土遺物 表探遺物
- 図版48 表探遺物 第220号土坑出土遺物
第78号溝出土遺物
第11号住居跡出土遺物
- 図版49 第49号土坑出土鉄製品
第465号土坑出土古銭
- 図版50 第465号土坑出土古銭
第1号木棺墓出土鉄製品
- 図版51 第1号木棺墓出土鉄製品
- 〈飯塚古墳群〉**
- 図版52 飯塚古墳群全景
- 図版53 第2号墳 第3号墳 第4号墳
第4号墳石室
第4号墳棺床面除去後
第4号墳石室基礎石除去後
第4号墳石室側壁 第4号墳石室根石
- 図版54 第4号墳周溝内遺物出土状況
第4号墳石室内玉出土状況
第4号墳石室内遺物出土状況
第5号墳 第7号墳埴輪出土状況
- 図版55 第7号墳埴輪出土状況 第7号墳
第9号墳埴輪出土状況
- 図版56 第9号墳埴輪出土状況 第9号墳
第7・9号墳 第10号墳
第10号墳石室
- 図版57 第10号墳石室 第10号墳石室奥壁

	第10号墳石室側壁	図版65	第7号墳出土円筒埴輪
	第10号墳石室内人骨・遺物出土状況		第9号墳出土円筒埴輪
	第10号墳石室内人骨出土状況	図版66	第9号墳出土円筒埴輪
	第10号墳石室内遺物出土状況	図版67	第9号墳出土円筒埴輪
図版58	第10号墳石室内遺物出土状況	図版68	第9号墳出土円筒埴輪
	第11号墳 第11号墳遺物出土状況	図版69	第9号墳出土円筒埴輪
	第12号墳 第13号墳	図版70	第9号墳出土円筒埴輪
図版59	第14号墳 第14号墳石室	図版71	第9号墳出土円筒埴輪
	第15号墳 第15号墳石室	図版72	第9号墳出土円筒埴輪
	第19号墳 第21号墳	図版73	第9号墳出土円筒埴輪
	第1号井戸跡 第3号井戸跡	図版74	第9号墳出土円筒埴輪
図版60	第4号墳出土遺物	図版75	第7号墳出土円筒埴輪
	第7号墳出土円筒埴輪	図版76	第9号墳出土円筒埴輪
	第7号墳出土遺物	図版77	第9号墳出土円筒埴輪
図版61	第9号墳出土遺物 第11号墳出土遺物	図版78	第10号墳石室内副葬品
	第14号墳出土遺物 第16号墳出土遺物	図版79	第11号墳出土遺物
	表探遺物		第1号性格不明遺構出土遺物
図版62	第7号墳出土円筒埴輪		第6号溝出土遺物 グリッド出土遺物
図版63	第7号墳出土円筒埴輪		表探円筒埴輪
図版64	第7号墳出土円筒埴輪		

I 発掘調査の概要

1 発掘調査に至るまでの経過

埼玉県では、自然環境の保全、生活環境の整備に配慮しつつ、県土の調和と均衡ある発展を目指して基盤整備を進めるため、各種の施策を実施している。

その一環として、県企業局では、工場誘致と適切な工場配置のため、妻沼町（現熊谷市）大字永井太田及び大字飯塚地内で妻沼西部工業団地の造成を計画した。

埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課（当時）は、これら県が実施する公共開発事業に係る文化財の保護について、従前より関係部局と事前協議を重ね、調整を図ってきたところである。

妻沼西部工業団地造成に係る埋蔵文化財の所在及び取扱いについて、県企業局土地造成課長（当時）から文化財保護課長（当時）あて照会があったため、文化財保護課（当時）では、平成9年2月3日から同7日にかけて約54haを対象に試掘による確認調査を実施した。

確認調査の結果、事業地内に飯塚北遺跡（遺跡№61-042）及び飯塚古墳群（遺跡№61-081）の所在が確認されたため、文化財保護課長からはその所在に加えて、取り扱いとして、「埋蔵文化財については現状で保存することが望ましいが、やむを得ず現状を変更する場合には、事前に記録保存のための発掘調査を実施すること」、「発掘調査の実施については文化財保護課と協議すること」を回答した。

これを受けて、県企業局土地造成課（当時）と文化財保護課（当時）は、「現状保存が望ましい」という基本的な考え方に基づいて、飯塚北遺跡及び飯塚古墳群の埋蔵文化財の保護に係る協議を行った。

その結果、工業団地の周辺緑地帯部分において一部埋蔵文化財を現状保存することができたが、他の部分については工事計画の変更が困難であったため、やむを得ず記録保存のための発掘調査を実施することになった。また、発掘調査については、財団法人

埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施することになった。

文化財保護法第57条の3第1項（現第94条）の規定による埼玉県知事からの発掘の通知は平成9年4月1日付け企局土第13号で提出され、それに対する埼玉県教育委員会教育長からの勧告は、平成9年4月25日付け教文第3-63号及び教文第3-64号で行った。

発掘調査は、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団により平成9～11年度に実施された。なお、飯塚古墳群については、造成計画の一部変更により平成15年度にも発掘調査が行われた。

文化財保護法第57条第1項（現第92条）の規定による財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長からの発掘調査の届出に対する埼玉県教育委員会教育長からの指示通知については以下のとおりである。
〔平成9年度〕

飯塚北遺跡

平成9年4月25日付け教文第2-7号

飯塚古墳群

平成9年4月25日付け教文第2-8号

〔平成10年度〕

飯塚北遺跡

平成10年4月24日付け教文第2-3号

飯塚古墳群

平成10年4月24日付け教文第2-2号

〔平成11年度〕

飯塚北遺跡

平成11年4月14日付け教文第2-3号

〔平成15年度〕

飯塚古墳群

平成15年11月11日付け教文第2-56号

（埼玉県教育局生涯学習部生涯学習文化財課）

2 発掘調査・報告書作成の経過

発掘調査

発掘調査は、飯塚北遺跡では平成9年4月1日から平成11年3月31日までと平成11年4月1日から平成11年8月31日まで、中断を挟んで調査を実施した。調査面積は10,000㎡で、下面の調査が3,500㎡増加した。飯塚古墳群は平成9年4月1日から平成9年9月30日までと平成10年4月1日から平成10年9月30日まで、更に平成15年11月4日から平成15年12月26日の3度に亘って4,700㎡の調査を行った。

平成9年度は4月から事務手続きなどの準備を行い、同時に事務所としてプレハブの設置、器材運搬等の発掘準備と重機による表土除去作業を行った。

飯塚北遺跡では表土除去終了後、備前渠に沿った東西外周道路予定地と、そこから北へ延びる南北外周道路及び緑地帯を挟んだ北側の造成予定地一部の遺構確認を行い遺構精査に着手した。遺構ごとに精査し、遺構内の土層堆積状態の観察と実測をし、遺物出土状況・遺構全体の実測・写真撮影の記録保存を行った。調査の結果、平安時代の堅穴住居跡・掘立柱建物跡・木棺墓・土坑や中世の井戸・火葬跡・掘立柱建物跡・溝跡等が検出された。調査の段階で、遺構の床面や壁面から他の遺構が確認され、平安時代の遺構が2層に分れることが明らかとなった。

遺構が2層に分かれることから、東西外周道路と南北外周道路計画地の一部については上層面調査終了後空中写真撮影を行った。再度掘削を行い、下面の遺構確認調査をした。その結果、堅穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・溝跡を多数検出した。第75号土坑では灰釉陶器や緑釉陶器が纏まって出土し、第71号溝・第72号溝からは、奈良時代の土師器・須恵器が多量に出土した。

飯塚古墳群では、4月から9月まで備前渠に沿った東西外周道路予定地の表土除去後、遺構精査を行った。調査の結果、10基の円墳跡と1基の方墳跡が検出された。他の2基の古墳から朝顔形埴輪を含む

円筒埴輪が大量に検出された。その他に、土坑・井戸跡・溝跡が検出された。

平成10年度は4月から事務手続きを行い、飯塚北遺跡は昨年度からの継続調査を行った。東西外周道路予定地と南北外周道路予定地の確認調査を終了した部分から遺構の精査を行った。また、外周道路予定地の下面調査終了後緑地帯北側の調査に着手し上面の調査終了後掘削を行い、下面の調査を行った。調査の結果、弥生時代中期の遺物包含層と再葬墓、奈良・平安時代の堅穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・溝跡・井戸跡・火葬土坑・柵列、中世の土坑・溝跡・井戸跡・火葬土坑が検出された。

飯塚古墳群は、昨年度調査の北側の南北外周道路予定地の調査を4月から9月に行った。表土除去後に遺構精査の結果、7基の円墳跡と2基の方墳跡の他に、土坑・井戸跡・溝跡が検出された。昨年度調査された第10号墳の横穴石室の調査は湯水期の年度当初に行われた。

平成11年度は飯塚北遺跡のみで4月から、事務手続きなどを行い、昨年度掘削した下面の遺構確認をし、遺構精査を行った。同じように遺構ごとに精査・記録を行った。調査の結果、弥生時代の再葬墓、平安時代の堅穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・井戸が検出された。8月は遺構清掃後、空中写真撮影を行った。発掘器材・発掘事務所の撤去と埋め戻し作業を行った。

平成15年度の飯塚古墳群の調査は、10年度に行われた南北外周道路予定地南端の西側の一部の調査であった。11月に事務手続き・事務所設置とともに、重機による表土除去を行った。遺構確認後、遺構の精査を行い、古墳跡2基・土坑3基・溝跡1条が検出され、古墳跡1基は第14号墳の周溝一部で、溝跡は第6号溝の続きであった。遺構実測・写真撮影などの記録保存をして調査を終了した。その後、事務所の撤去・事務処理を行い、12月に終了した。

整理・報告書作成

整理・報告書作成は、平成12年4月10日から平成13年3月23日、平成13年11月1日から平成14年3月22日、平成14年4月8日から平成14年8月31日、平成15年4月8日から平成15年8月31日、平成16年4月8日から平成17年3月24日、平成17年4月8日から平成18年3月24日までの6年に亘り断続的に実施した。

平成12年度は備前渠に沿った東西外周道路と西端の南北の外周道路部分の整理作業を行った。4月から遺物の水洗・注記および接合・復元を行い、終了したのから順次実測作業を行った。遺構図の図面整理は、遺構ごとに平面図・断面図・遺物出土状態の図を編集する作業から行った。編集したものは第2原図として説明文を組み合わせた版下を作成した。データ編集としては第2原図作成終了後、遺構計測データ処理を行い、計測表等の作成をし、また遺構ごとに土層注記の入力を行った。

平成13年度は、昨年度の整理範囲の東側、緑地帯に接した北側部分の整理作業を行った。昨年度と同様に遺構ごとに、遺物の水洗・注記および接合・復元、遺物実測作業を行った。遺構図は編集を行い、第2原図を作成し、スキャナーでパソコン内に取り込み遺構図のトレースを行った。遺構図にはパソコン内で諸記号・数字・スケール・土層説明等の貼りこみを行い完成させた。データ編集は土層注記の入力を行った。

平成14年度は、昨年度整理範囲の北側部分を昨年と同様に整理作業を行った。

平成15年度は、平成13年度に行った範囲の下面を昨年度と同様に整理作業を行った。

平成16年度は平成12年度から平成16年度で整理した竪穴住居跡出土遺物は遺物観察表作成のデータ処理を行い、遺物観察表を作成した。遺物で図示し切れない部分等は拓影を採り、実測図を製図ペンで墨入れしたものと組み合わせて版組し、番号・スケールなどの貼り込みをして、遺物図版を作成した。また、復元した遺物は1点ごとに写真撮影を行った。

写真図版は、調査時に撮影した写真を選択し、遺

物写真とともにトリミング等を行った。

平成17年度は、飯塚古墳群の整理作業を行った。遺物の水洗い後注記をし、土器・埴輪の接合を行った。接合後遺構ごとに遺物の実測を行った。壘・埴輪などの大型品は3スペースを使用し素図を作成し、それを基に実測図を作成した。昨年度までに整理した飯塚北遺跡の住居跡の一部と土坑・井戸跡・溝跡等他の遺構と飯塚古墳群の出土遺物は遺物観察表作成のデータ処理を行い、遺物観察表を作成した。遺物で図示し切れない部分等は拓影を採り、実測図を製図ペンで墨入れしたものと組み合わせて版組し、番号・スケールなどの貼り込みをして、遺物図版を作成した。また、復元した遺物は1点ごとに写真撮影を行った。

古墳群の遺構図は編集を行い、第2原図を作成し、スキャナーでスキャンニングしてパソコン内に取り込み遺構図のトレースを行った。遺構図にはパソコン内で諸記号・数字・スケール・土層説明等の貼りこみを行い完成させた。データ編集は土層注記の入力を行った。

飯塚北遺跡の土坑・井戸跡・溝跡等他の遺構図は、校正をし再編集を行った。

飯塚北遺跡・飯塚古墳群の写真図版は、調査時に撮影した写真を選択し、遺物写真とともにトリミング等を行った。

原稿執筆終了後、原稿・遺構図・遺物図・遺物観察表と写真を用い報告書の割付を行った。更に、遺構図は印刷できるようにデータ処理をした。

報告書印刷用原稿等の入稿後3回の校正を経て、3月下旬に報告書を刊行した。

図面類・写真類・遺物等を整理・分類し、収納作業を行った。

3 発掘調査・整理・報告書刊行の組織

主体者 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

発掘調査（平成9～11・15年度）

平成9年度

理 事 長	荒 井 桂
副 理 事 長	富 田 真 也
専 務 理 事	塩 野 博
常務理事兼管理部長	稲 葉 文 夫
管 理 部	
庶 務 課 長	依 田 透
主 査	西 沢 信 行
主 任	長 滝 美 智 子
主 任	腰 塚 雄 二
専門調査員兼経理課長	関 野 栄 一
主 任	江 田 和 美
主 任	福 田 昭 美
主 任	菊 池 久

調査部

理 事 兼 調 査 部 長	梅 沢 太 久 夫
調 査 部 副 部 長	今 泉 泰 之
調 査 第 四 課 長	鈴 木 秀 雄
主 査	利 根 川 章 彦
主 査	川 島 健
主 任 調 査 員	山 本 禎
主 任 調 査 員	細 田 勝
主 任 調 査 員	書 上 元 博
主 任 調 査 員	岩 田 明 広
調 査 員	大 谷 宏 治

平成10年度

理 事 長	荒 井 桂
副 理 事 長	飯 塚 誠 一 郎
常務理事兼管理部長	鈴 木 進
管 理 部	
庶 務 課 長	金 子 隆
主 査	田 中 裕 二
主 任	長 滝 美 智 子
主 任	腰 塚 雄 二
専門調査員兼経理課長	関 野 栄 一

主 任	江 田 和 美
主 任	福 田 昭 美
主 任	菊 池 久
調 査 部	
調 査 部 長	谷 井 彪
調 査 部 副 部 長	水 村 孝 行
調 査 第 四 課 長	鈴 木 秀 雄
統 括 調 査 員	細 田 勝
統 括 調 査 員	川 島 健
主 任 調 査 員	岩 瀬 讓
主 任 調 査 員	吉 田 稔
主 任 調 査 員	末 木 啓 介

平成11年度

理 事 長	荒 井 桂
副 理 事 長	飯 塚 誠 一 郎
常務理事兼管理部長	広 木 卓
管理副部長兼経理課長	関 野 栄 一
管 理 部 庶 務 課	
庶 務 課 長	金 子 隆
主 査	田 中 裕 二
主 任	江 田 和 美
主 任	長 滝 美 智 子
管 理 部 経 理 課	
主 任	福 田 昭 美
主 任	腰 塚 雄 二
主 任	菊 池 久

調査部

調 査 部 長	増 田 逸 郎
調 査 部 副 部 長	水 村 孝 行
主 席 調 査 員 (調 査 第 四 担 当)	杉 崎 茂 樹
統 括 調 査 員	細 田 勝
主 任 調 査 員	村 田 章 人

平成15年度

理 事 長	桐 川 卓 雄
副 理 事 長	飯 塚 誠一郎
常務理事兼管理部長 管理部	中 村 英 樹
管 理 部 副 部 長	村 田 健 二
主 席	田 中 由 夫
主 任	江 田 和 美
主 任	長 滝 美智子
主 任	福 田 昭 美
主 任	腰 塚 雄 二
主 任	菊 池 久
調 査 部	
調 査 部 長	宮 崎 朝 雄
調 査 部 副 部 長	坂 野 和 信
主 席 調 査 員 (調 査 第 1 担 当)	昼 間 孝 志
統 括 調 査 員	西 井 幸 雄
主 任 調 査 員	中 山 浩 彦

整理事業 (平成12～17年度)

平成12年度

理 事 長	中 野 健 一
副 理 事 長	飯 塚 誠一郎
常務理事兼管理部長 管理部	広 木 卓
管 理 副 部 長	関 野 栄 一
主 席 (庶務担当)	阿 部 正 浩
主 席 (施設担当)	野 中 廣 幸
主 任	菊 池 久
主 席 (経理担当)	江 田 和 美
主 任	長 滝 美智子
主 任	福 田 昭 美
主 任	腰 塚 雄 二
調 査 部	
調 査 部 長	高 橋 一 夫
調 査 部 資 料 副 部 長	鈴 木 敏 昭
主 席 調 査 員 (資 料 整 理 担 当)	磯 崎 一
統 括 調 査 員	細 田 勝

平成13年度

理 事 長	中 野 健 一
副 理 事 長	飯 塚 誠一郎
常務理事兼管理部長 管理部	大 館 健
管 理 幹 事	持 田 紀 男
主 任	菊 池 久
主 任	江 田 和 美
主 任	長 滝 美智子
主 任	福 田 昭 美
主 任	腰 塚 雄 二
調 査 部	
調 査 部 長	高 橋 一 夫
調 査 部 副 部 長	坂 野 和 信
主 席 調 査 員 (資 料 整 理 担 当)	磯 崎 一
統 括 調 査 員	細 田 勝

平成14年度

理 事 長	桐 川 卓 雄
副 理 事 長	飯 塚 誠一郎
常務理事兼管理部長 管理部	大 館 健
管 理 幹 事	持 田 紀 男
主 任	江 田 和 美
主 任	長 滝 美智子
主 任	福 田 昭 美
主 任	腰 塚 雄 二
主 任	菊 池 久
調 査 部	
調 査 部 長	高 橋 一 夫
調 査 部 副 部 長	坂 野 和 信
主 席 調 査 員 (資 料 整 理 担 当)	磯 崎 一
主 任 調 査 員	福 田 聖

平成15年度

理事 長	桐川 卓 雄
副理事 長	飯塚 誠一郎
常務理事兼管理部長	中村 英 樹
管理部	
管理部 副部長	村田 健 二
主 席	田中 由 夫
主 任	江田 和 美
主 任	長滝 美智子
主 任	福田 昭 美
主 任	腰塚 雄 二
主 任	菊池 久
調査部	
調査部 長	宮崎 朝 雄
調査部 副部長	坂野 和 信
主席調査員	金子 直 行
統括調査員	細田 勝

平成16年度

理事 長	福田 陽 充
副理事 長	飯塚 誠一郎
常務理事兼管理部長	中村 英 樹
管理部	
管理部 副部長	村田 健 二
主 席	田中 由 夫
主 任	長滝 美智子
主 任	福田 昭 美
主 任	菊池 久
主 事	海老名 健
主 事	石原 良 子
調査部	
調査部 長	宮崎 朝 雄
調査部 副部長	坂野 和 信
主席調査員 (資料整理担当)	磯崎 一
統括調査員	山本 禎

平成17年度

理事 長	福田 陽 充
副理事 長	飯塚 誠一郎
常務理事兼管理部長	保永 清 光
管理部 副部長	村田 健 二
主 席	高橋 義 和
主 席	宮井 英 一
主 任	長滝 美智子
	(8月まで)
主 任	福田 昭 美
主 任	菊池 久
主 事	海老名 健
主 事	岩上 浩 子
	(8月から)
調査部	
調査部 長	今泉 泰 之
調査部 副部長	坂野 和 信
主席調査員	磯崎 一
(資料整理第1担当)	
統括調査員	山本 禎

II 遺跡の立地と環境

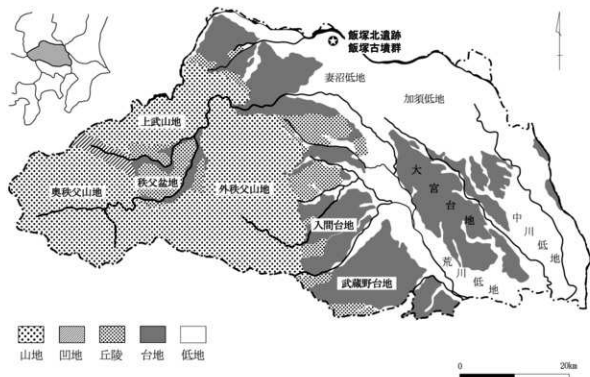
埼玉県北部の群馬県との境となる利根川右岸の周辺部一帯は、利根川及び利根川の支流によって形成された自然堤防とその後背地からなる低地帯で、妻沼低地と呼称されている。旧妻沼町域は、西から東に向かい高さを減じながら傾斜している。地形的には、福川と奈良川との間に形成された南側の微高地、芝川と福川の間の中部微高地、芝川と利根川の間に形成された北側の台地に大別できる。

飯塚北遺跡は、熊谷市（旧妻沼町）大字永井太田1,531番地他に所在し、飯塚古墳群は飯塚北遺跡の東側にあり、利根川の南方約2kmの微高地上に位置する。この微高地はかつての利根川の支流によって形成された自然堤防で、標高29.4～30.8mを測り、南から北東方向に緩やかに傾斜している。

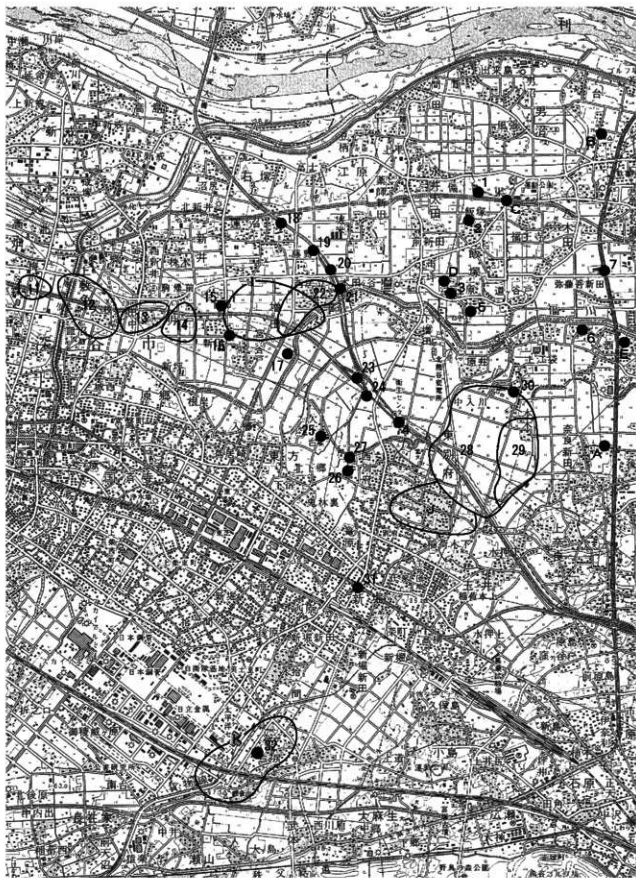
旧石器から縄文時代の遺跡は極めて少ないが、縄文時代に入ると櫛引台地上と妻沼低地にも遺跡がみ

られる。妻沼低地の寺東遺跡では、前期関山式土器が検出され、櫛引台地上の三ヶ尻遺跡群内では前期黒浜期の集落と中期から後半の集落が検出されている。中期末葉から後期になると櫛引台地上の深谷町遺跡や妻沼低地の本郷前東遺跡・原遺跡・上敷免遺跡・前遺跡・諏訪木遺跡・寺東遺跡・石田遺跡などがある。縄文晩期になると妻沼低地では前述のこれらの遺跡を継承した位置に集落が営まれる。諏訪木遺跡では、後期から晩期の遺構や包含層が検出されている。このように縄文時代後期から自然堤防上へ生活の拠点を展開していった状況が窺える。

弥生時代に入ると縄文時代の遺跡立地を踏襲する形で自然堤防上の遺跡が多くなる。新荒川扇状地末端湧水地と妻沼低地末端地が錯綜する低地帯の北島遺跡では前期末の土壌が検出され、後期にかけて遺構が検出された。中期には、妻沼低地の飯塚北遺跡・



第1図 埼玉県の地形



第2図 周辺の遺跡



- | | |
|------------|-------------|
| 1 飯塚北遺跡 | A 横塚山古墳 |
| 2 飯塚遺跡 | B 摩多利神社古墳 |
| 3 飯塚南遺跡 | C 飯塚古墳群 |
| 4 横間東遺跡 | D 妻沼No.6古墳 |
| 5 道ヶ谷戸条里 | E 妻沼No.12古墳 |
| 6 上江袋遺跡 | F 王子古墳 |
| 7 弥藤吾新田遺跡 | G 西城古墳 |
| 8 妻沼小学校内遺跡 | H 妻沼No.19古墳 |
| 9 轟森・入船遺跡 | I 上増田古墳群 |
| 10 長安寺北遺跡 | J 別府古墳群 |
| 11 森下遺跡 | K 三ヶ尻古墳群 |
| 12 上敷免遺跡 | L 中条古墳群 |
| 13 本郷前東遺跡 | M 肥塚古墳群 |
| 14 新屋敷東遺跡 | |
| 15 明戸東遺跡 | |
| 16 宮ヶ谷戸遺跡 | |
| 17 東川原遺跡 | |
| 18 砂田遺跡 | |
| 19 柳町遺跡 | |
| 20 城北遺跡 | |
| 21 届立遺跡 | |
| 22 原遺跡 | |
| 23 清水上遺跡 | |
| 24 根路遺跡 | |
| 25 橋跡遺跡 | |
| 26 西別府鹿寺 | |
| 27 西別府祭氣遺跡 | |
| 28 別府条田遺跡 | |
| 29 一木木遺跡 | |
| 30 前遺跡 | |
| 31 龍原東遺跡 | |
| 32 三ヶ尻上古遺跡 | |
| 33 北島遺跡 | |
| 34 田谷遺跡 | |
| 35 深谷町遺跡 | |
| 36 池上遺跡 | |
| 37 諏訪木遺跡 | |
| 38 小敷田遺跡 | |

飯塚遺跡・飯塚南遺跡・横間渠遺跡・宮ヶ谷戸遺跡・明戸東遺跡・上敷免遺跡、低地帯の池上遺跡・小敷田遺跡・北島遺跡、荒川扇状地の扇端部に位置する平戸遺跡、荒川左岸の段丘上の舌状台地の先端に位置する三ヶ尻上古遺跡、妻沼低地を望む柳引台地の舌状台地端部に位置する用土平遺跡、柳引台地の西北端に位置する四十坂遺跡などがあげられる。飯塚遺跡・三ヶ尻上古遺跡では土壇墓、飯塚南遺跡では、堅穴住居跡・埋設土器が検出された。飯塚北遺跡では再葬墓・土壇・遺物集中区、横間渠遺跡では、再葬墓・土壇が検出された。上敷免遺跡からは、再葬墓が検出され、用土平遺跡では、堅穴住居が検出されている。後期には熊谷市東沢遺跡、行田市池森遺跡・小敷田遺跡・明戸東遺跡から吉ヶ谷式土器が出土している他、弥藤吾新田遺跡では、南関東系の弥生町式土器が出土している。

古墳時代には、古墳・集落ともに台地ばかりでなく低地部の自然堤防上の微高地に進出する傾向が窺える。前期には、起会遺跡・森下遺跡・本郷前東遺跡・明戸東遺跡・宮ヶ谷戸遺跡・東川端遺跡・清水上遺跡・根絡遺跡・横間渠遺跡・東別府条里遺跡・弥藤吾新田遺跡、鶴森遺跡、上江袋遺跡・一本木前遺跡があげられる。

集落が大規模に展開するのは和泉式土器後半の段階からで、原遺跡・東川端遺跡・新屋敷東遺跡・本郷前東遺跡・上敷免遺跡・砂田遺跡・居立遺跡・城北遺跡・柳町遺跡・妻沼小学校内遺跡・鶴森入胎遺跡・飯塚南遺跡・道ヶ谷戸遺跡・弥藤吾遺跡・北島遺跡・小敷田遺跡・一本木前遺跡などがある。

古墳時代後期になると、妻沼低地では別府・奈良地域の拠点として250軒以上の住居跡が検出されている一本木前遺跡を初めとして、根絡遺跡・天神下遺跡・砂田遺跡・柳町遺跡・上敷免北遺跡・新屋敷東遺跡・本郷前東遺跡・宮ヶ谷戸遺跡・原遺跡・城北遺跡・八日市場前遺跡・東川端遺跡・清水上遺跡・飯塚南遺跡・道ヶ谷戸遺跡と爆発的に拡大する。中条地域の拠点として北島遺跡は前期から規模を拡大

し、周囲には諏訪木遺跡などがあり平安時代にかけて水辺祭祀が行われている。

古墳は中期後半、B種横刷毛の朝顔形円筒埴輪をもつ前方後円墳の横塚山古墳を緒源とし、円墳の摩多利神社古墳、飯塚古墳群の他に上江袋遺跡・入胎遺跡・上増田古墳群・中条古墳群が出現する。柳引台地縁辺部の三ヶ尻古墳群は埴輪を有するものと有しない古墳があり、やねや塚古墳からは全周する円筒埴輪列のほか形象埴輪が検出されている。また、肥塚古墳群では川原石乱石積みと角閃石安山岩切組積みの2種類の副張り横穴式石室が確認されている。

古代に入ると規模の拡大と官衙関連施設を想定させる特定集落が発見されている。幡羅遺跡では総柱の倉庫群が発見され幡羅郡衙の正倉域と考えられ、西別府廃寺は幡羅郡の郡寺と想定されている。西別府祭祀遺跡は県内でもほとんど類例のない遺跡で、奈良時代を中心とした古墳時代後期から平安時代までの水辺の祭祀遺跡である。これらとともに一本木遺跡を含めた別府条里や北島遺跡、諏訪木遺跡を中心とした中条条里が展開している。また、小敷田遺跡では7世紀末から8世紀初頭にかかる出挙木簡が出土した他、池上遺跡では9世紀代の企画性のある掘立柱建物跡群が検出されている。諏訪木遺跡では区画性のある集落と大型掘立柱建物跡が発見され特殊な様相を示している。

集落は、古墳時代後期に自然堤防上の微高地に形成された多くが奈良・平安時代へと継続されていく。新屋敷東遺跡・明戸東遺跡は、堅穴住居跡を主体に掘立柱建物跡とともに構成された集落である。他に柳町遺跡・東川端遺跡・清水上遺跡・根絡遺跡・道ヶ谷戸条里・上江袋遺跡・飯塚南遺跡・鶴森入胎遺跡・弥藤吾新田遺跡・上敷免遺跡・一本木前遺跡・籠原裏遺跡等が挙げられる。

III 遺跡の概要

飯塚北遺跡と飯塚古墳群は、妻沼低地内の自然堤防上に立地し、利根川が東流から南東流する変換点付近の南約2kmに位置する。両遺跡の北側は低地で、低地が両遺跡間に入り込み両遺跡を画する。

飯塚北遺跡は北東部が低地に面し、西から南西部にかけての自然堤防の僅かな高まりに形成された。今回の調査区部分は遺跡範囲の東限にあたる。

遺跡は、弥生時代中期と奈良・平安時代から中世に亘る遺跡である。文化層は2面確認され弥生時代と奈良・平安時代以降とに分かれ、平安時代の住居跡も上下2面で検出されたものもあった。利根川の氾濫などで埋没した後に再び集落が構築されたと推定される。

遺構は調査区北西部と南東部以外は重複して検出され、調査区中央西部は特に遺構の重複が激しい。調査区外への集落は南西へと拡がっていくと推定される。

弥生時代で検出された遺構は、中期の再葬墓・土壙の他、縄文時代の石器も一部含む弥生時代の土器集中区が検出された。再葬墓・土坑から壺・甕が出土した。

土器集中区は、遺構として確認されたものではなく、縄文土器・弥生土器や石器が纏まって出土している状態で、5箇所が確認された。遺構以外からも土器や石器類が出土した。

奈良時代で検出された遺構は、竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑があり、平安時代では竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・井戸跡・木棺墓・火葬土坑・溝等である。土坑・井戸跡・木棺墓・溝跡はほとんどが住居跡を切って構築されており、平安時代以降のものがほとんどである。

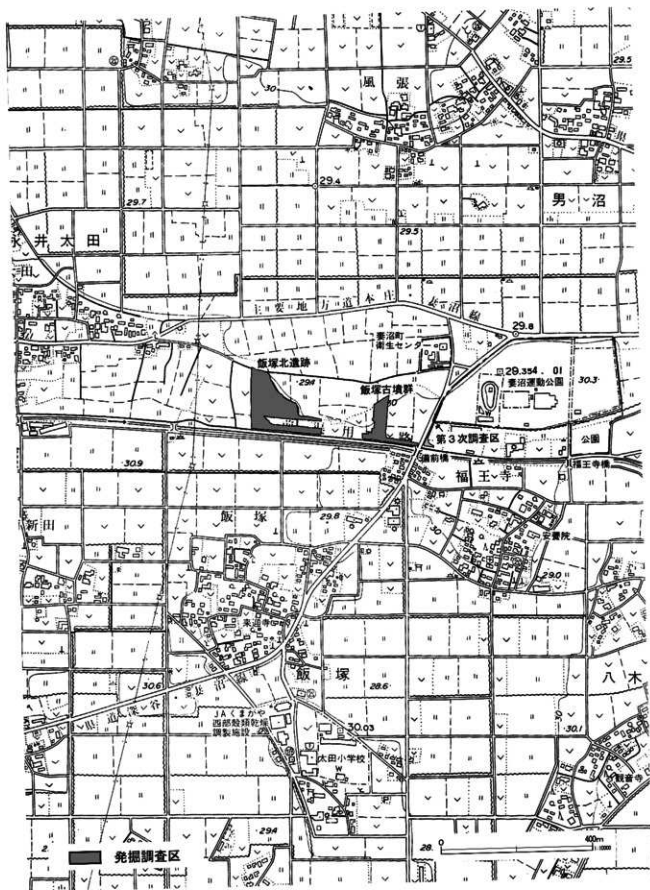
奈良・平安時代の住居跡・土坑からは、土師器・須恵器の他に、灰釉陶器・緑釉陶器も出土している。須恵器で注目されるものは、破片ではあるが円面硯のなかの圓足硯に分類されるものが6軒の住居跡か

ら出土した。また、第120号住居跡からは、鉸具と帯金具や石製の丸駒などの帯飾が一式出土している。

飯塚古墳群は、飯塚北遺跡のすぐ東側に位置し、西側と北側が低地となっている自然堤防上に形成された。円墳跡を主体として構築され、方墳跡も検出されたが、墳丘は多くが削平され主体部が検出された古墳はすくなかった。一部には地盤の沈降により埋没したような状態の古墳もあった。

2基の円墳から、円筒埴輪が出土した。墳丘裾部から周溝へ転げ落ちた状態で出土した古墳と周溝の一部に集中して出土した古墳があった。

また、5基古墳から主体部を検出した。横穴式石室が4基と土坑1基である。横穴式石室は、閃石安山岩製で胴張りを呈し、転石の上面を削って石が積まれ石室内面も一部削っている。2基は根石一部の遺存、根石と壁1段と棺床面が遺存していたもの、玄室の壁は石積みが7段ほど遺存していた。



第3図 調査区周辺の地形

IV 飯塚北遺跡

1 遺跡の概要

飯塚北遺跡は、妻沼低地内の自然堤防上に立地し、利根川が東流から南東流する変換点付近の南約2kmに位置する。遺跡の北側は低地で、西から南西部が自然堤防の僅かな高まりがみられる。調査区部分は遺跡範囲の東限にあたり、北東側は低地となっている。

遺跡は、弥生時代中期と奈良・平安時代から中世に亘る遺跡である。文化層は2面確認され弥生時代と奈良・平安時代以降とに分かれ、平安時代の住居跡も上下2面で検出されたものもあった。利根川の氾濫などで埋没した後再び集落が構築されたと推定される。

遺構は調査区北西部と南東部以外は重複して検出され、調査区中央西部は特に遺構の重複が激しい。調査区外への集落は南西へと拡がっていくと推定される。

縄文時代は、土坑からの土器片が若干出土したのみであるが、遺構に伴うものではなく土坑内に混入したものである。遺構以外からは土器・石鏃や打製石斧が出土している。

弥生時代で検出された遺構は、中期の再葬墓5基・土壇6基の他、縄文時代の石器も一部含む弥生時代の土器集中区が5箇所検出された。5基の再葬墓から壺が出土し、2基の土坑からは、壺・甕が出土している。6基の土坑墓からは炭化物のほか骨片・骨粉が検出された土坑墓も確認されている。

土器集中区は、遺構として確認されたものではなく、縄文土器・弥生土器や石器が纏まって出土している状態で、5箇所が確認された。遺構以外からも

土器や石器類が出土した。

古墳時代の土器は数点出土しているが、遺構は確認されていない。

また、奈良時代の竪穴住居跡43軒、掘立柱建物跡5棟、平安時代の竪穴住居跡262軒、掘立柱建物跡34棟であった。その他の遺構は、土坑979基、井戸跡41基、木棺墓1基、土坑墓5基、火葬土坑14基、溝100条、性格不明遺構1基であった。土坑・井戸跡・木棺墓・溝跡はほとんどが住居跡を切って構築されており、平安時代以降のものがほとんどである。

奈良・平安時代の住居跡からは、土師器・須恵器の他に、灰釉陶器・緑釉陶器も出土している。須恵器で注目されるものは、破片ではあるが円面碗のなかの圓足碗に分類されるものが6軒の住居跡から出土した。また、第120号住居跡からは、鉸具と帯金具や石製の丸柄などの帯飾が一式出土している。

土坑は979基検出され、奈良時代1基、平安時代208基、中世5基であるが、他の多くは時期不明である。土師器・須恵器だけでなく灰釉陶器・緑釉陶器も出土し、第75号土坑では灰釉陶器・緑釉陶器がまとまって出土した。その他、北宋銭を備蓄した土坑や土鍾が大量に出土した土坑などがある。

木棺墓からは大量の鉄釘と鉄製品が出土し、灰釉陶器なども共伴していた。

溝跡は100条検出し、平安時代から中世の遺物が検出された。奈良時代の溝が3条、平安時代6条でその他の多くは時期不明である。

2 遺構と遺物

(1) 住居跡

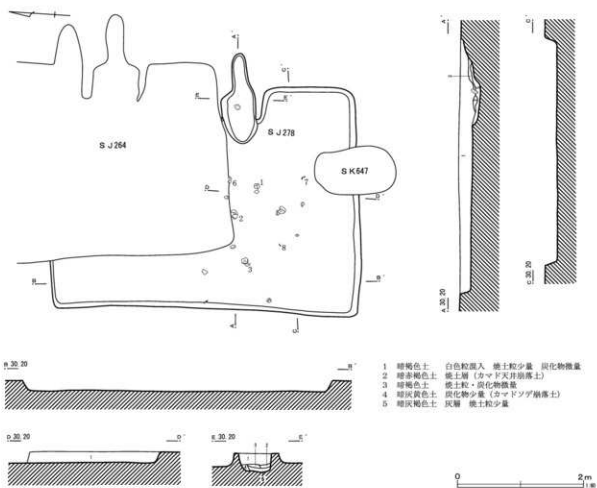
調査当初で第1号住居跡から第331号住居跡まで番号を付したが、連続せずに欠番となっているものがある。調査段階で、住居跡でなかったものや他の遺構と判断し他遺構の番号が付されたが住居跡であったものなどがある。住居跡番号は第333号住居跡までであるが、総数は305軒である。軒数が多いことから番号を付け直すことは混乱を生じるため、調査時の住居跡番号のまま、または他遺構から住居跡に変更したものには新住居跡番号を付している。本報告では前報告書で掲載できなかった42軒の住居跡について報告する。

第278号住居跡 (第4・5図)

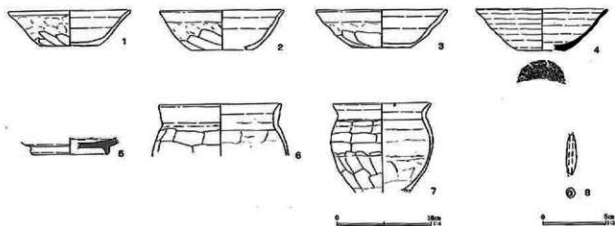
L・M-18・19グリッドに位置する。第264号住居跡・第467号土坑と重複し、北半部と東壁の一部が切れ、当住居跡が最も古い。規模は、主軸長東西3.81m、西壁で南北4.80m、深さ18cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-88°-Eを指す。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、94cm×53cm、深さ13cmを測り、煙道部は長さ58cmが確認できた。

遺物は、土師器環・甕・台付甕、須恵器環、灰軸



第4図 第278号住居跡



第5図 第278号住居跡出土遺物

第278号住居跡出土遺物観察表 (第5図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師環	(13.0)	3.7	(6.2)	A B F J	普通	にぶい橙	15	覆土	
2	土師環	(13.0)	4.2	(6.6)	B F J	普通	にぶい橙	30	覆土	
3	土師環	(14.0)	4.0	(6.0)	A B F J	普通	橙	40	覆土	
4	須恵環	(14.0)	4.4	5.0	A C J K	良好	灰	40	カマド	底部回転承切り
5	灰釉高台塊			(8.0)	A G	良好	灰	10	覆土	高台内へラ削り 施釉内外面ハケヌリ一筆 浜北産
6	土師薬	(13.0)			A B F J	普通	褐	25	覆土	
7	土師台付鉢	(10.4)			B F J	普通	にぶい赤褐	30	床直	台部欠損
8	土鏝	長さ(3.2)	径0.8	孔径0.35		普通	褐灰	95	覆土	

陶器高台付塊、土鏝が出土した。

第279号住居跡 (第6図)

L・M-19グリッドに位置する。カマドのみの検出で主軸方位は、N-73°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられていたと推定される。燃焼部は、45cm×55cm、深さ8cmを測る。

第280号住居跡 (第7図)

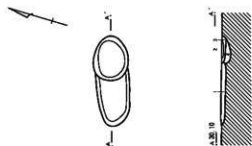
K-14グリッドに位置し、下層で検出された。第182・281号住居跡と重複し、両住居跡に切られ、

当住居跡が最も古い。規模は、主軸長南壁で東西1.06mが確認でき、西壁で南北4.15mが確認でき、深さ8cm程を測る。主軸方位は東カマドとすると、N-87°-Eを指す。

遺物は、土師環が出土した。

第281号住居跡 (第8・9図)

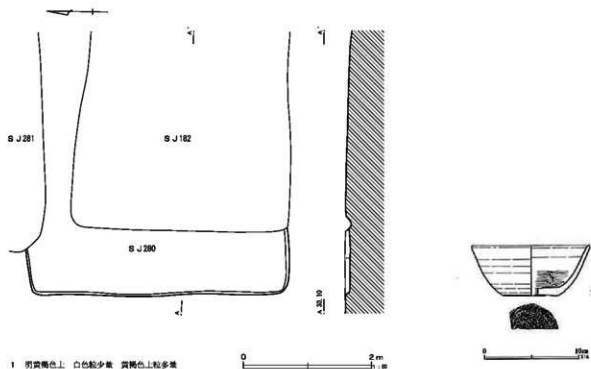
J・K-14、J-15グリッドに位置し、下層で検出された。第280号住居跡と重複して切って、当住居跡のほうが新しい。規模は、主軸長東西3.16m、



- 1 緑灰褐色土 灰色粘土体 黒十粒燻土 (取り床)
- 2 薄褐色土 灰土粒燻土
- 3 厚く褐色土 燻土層
- 4 黒褐色土 燻土粒少量 灰含む (カマド削り方)

0 2m

第6図 第279号住居跡

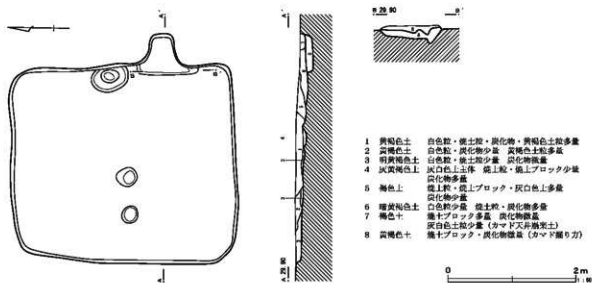


1 明黄褐色土：白色粒少量、黄褐色土粒多量

第7图 第280号住居跡・出土遺物

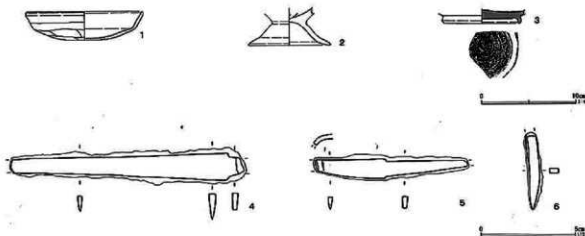
第280号住居跡出土遺物観察表（第7图）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師杯	(12.3)	5.3	(6.0)	ACG	普通	橙	20	覆土	黒色土器 内面・底部・部磨き



第8图 第281号住居跡

- 1 黄褐色土 白色粒・黄土粒・炭化物・黄褐色土粒多量
- 2 黄褐色土 白色粒・炭化物少量、黄褐色土粒多量
- 3 明黄褐色土 白色粒・黄土粒少量、炭化物少量
- 4 灰黄褐色土 灰白色土主体 黄土粒・炭化物少量
- 5 褐色土 炭化物多量
- 6 褐色土 黄土粒・炭化物少量
- 7 褐色土 黄土粒・炭化物少量
- 8 黄褐色土 黄土粒・炭化物少量



第9図 第281号住居跡出土遺物

第281号住居跡出土遺物観察表 (第9図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師環	(12.2)	3.0		B J	普通	橙	45	覆土	高台内へラ削り 施釉なし 転用痕 内面朱痕
2	土師台付壺			(8.5)	A F G	普通	にぶい褐	50	覆土	
3	灰釉高台壺			(8.1)	A G	良好	灰白	25	覆土	
4	鉄製刀子	長さ [12.3] cm 刃幅0.7~1.4cm 背幅0.2~0.35cm							覆土	
5	鉄製刀子	長さ [8.1] cm 刃幅1.0cm 背幅0.25cm							覆土	同間 残存部刃先折れ曲がる
6	鉄製接合具	長さ [4.0] cm 幅0.45×0.2cm							覆土	釘か

南北3.56m、深さ17cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-87°-Eを指す。

カマドは、東壁でやや南寄りに設けられている。燃烧部は、65cm×50cm、深さ20cmを測る。

遺物は、土師器環・台付壺、灰釉陶器高台付壺と鉄製刀子と鉄釘もしくはそれに類する接合具の基部〜脚部が出土した。

第284号住居跡 (第10・11図)

L-19グリッドに位置する。第306号住居と重複し、当住居跡の方が古い。規模は、主軸長東西は南壁で3.01m、南北は東壁で4.30m、深さ27cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-77°-Eを指す。

カマドは、第306号住居跡に切られ、確認できなかった。

遺物は、土師器環・台付壺が出土した。

第306号住居跡 (第10・12・13図)

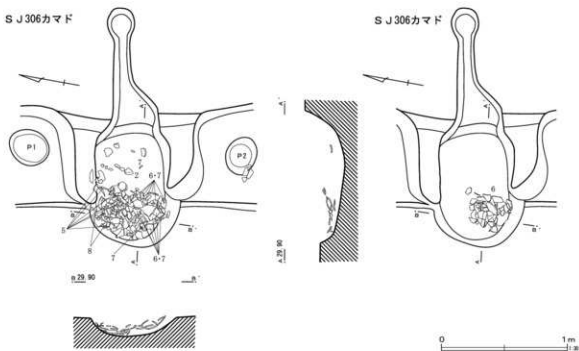
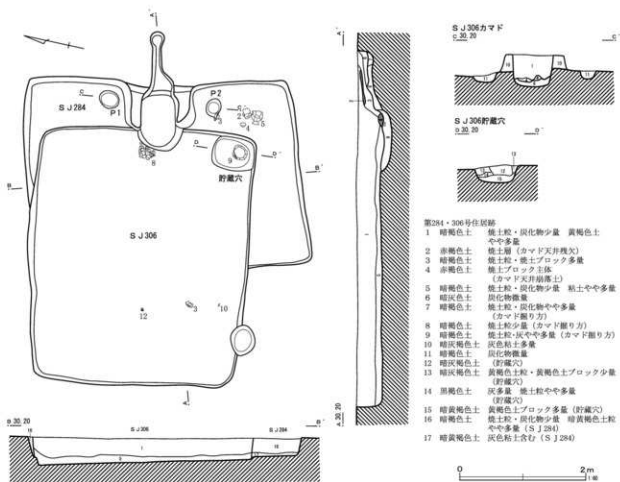
L-19グリッドに位置する。第284号住居と重複し、切っており、当住居跡が新しい。規模は、主

軸長東西3.40m、南北4.12m、深さ40cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-80°-Eを指す。

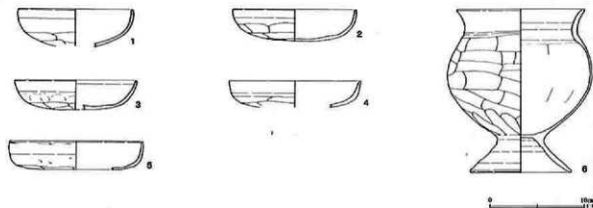
貯蔵穴は、南東隅に設けられており、54cm×67cmの長方形で、深さ27cmを測る。

カマドは、東壁に設けられている。燃烧部は、62cm×57cm、深さ15~26cmを測る。煙道部は、長さ60cmが確認できた。

遺物は、土師器環・壺、須恵器高台付壺、土錘と用途不明の棺金具とみられる鉄製品が出土した。



第10図 第284・306号住居跡



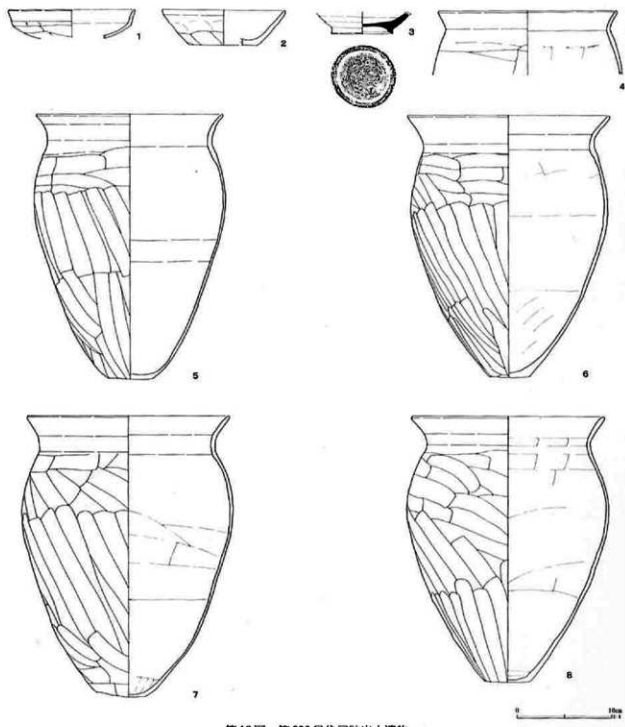
第11図 第284号住居跡出土遺物

第284号住居跡出土遺物観察表 (第11図)

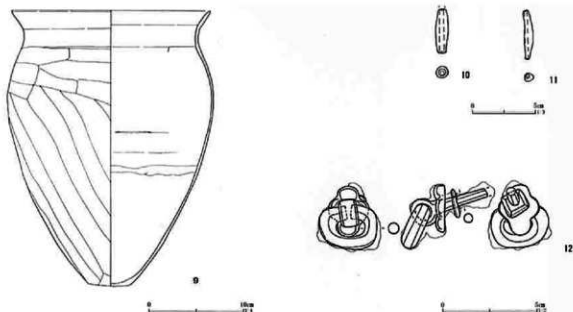
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師環	(12.0)	3.9		B J	普通	橙	25	覆土	
2	土師環	13.2	3.3		A B F J	普通	にぶい褐	75	覆土	
3	土師環	(13.0)	3.1		A G J	普通	橙	45	覆土	
4	土師環	(14.0)	(2.8)		A B J	普通	にぶい橙	10	覆土	
5	土師環	(14.0)	3.0		A B J	普通	にぶい橙	10	覆土	
6	土師台付甕	13.4	17.3	10.5	A C F	普通	にぶい橙	100	覆土	

第306号住居跡出土遺物観察表 (第12・13図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師環	(13.4)	(3.0)		A B J	普通	にぶい褐	15	カマド	やや歪みあり
2	土師環	(13.0)	3.7	(7.0)	A B F J	普通	にぶい橙	30	掘り方	
3	須恵高台碗			6.5	A J K	良好	灰	80	覆土	底部回転糸切り
4	土師甕	(18.7)			A F J	普通	にぶい橙	20	覆土	
5	土師甕	(19.5)	28.1	4.8	A C F J	普通	にぶい橙	70	カマド	
6	土師甕	21.4	27.8	4.2	A B D F J	普通	にぶい橙	90	カマド	
7	土師甕	21.1	29.8	5.1	A B F J	普通	にぶい橙	90	カマド	
8	土師甕	19.9	28.2	4.8	A B F J	普通	明赤褐	80	カマド	
9	土師甕	20.8	29.1	4.5	A B C F	普通	にぶい橙	95	貯蔵穴	口縁部内外面横ナブ
10	土師	長さ(3.45)	径1.0	孔径0.35		普通	浅黄橙	95	覆土	
11	土師	長さ3.9	径0.7	孔径0.2		普通	浅黄橙	100	覆土	
12	不明鉄製品	管状釘長さ [4.1] cm 方形金具幅1.2cm			輪金具径2.5×2.1cm 花座金具2.5×2.1cm					管状釘に輪金具を造結し、管状釘は四弁の花座金具と方形金具に打ち込まれている。管金具か



第12图 第306号住居跡出土遺物



第13図 第306号住居跡出土遺物

第287号住居跡 (第14・15図)

K-13・14グリッドに位置し、下層で検出された。第288号住居跡と重複し、当住居跡が新しい。規模は、主軸長東西5.68m、南北4.08m、平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-92°-Eを指す。カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、124cm×120cm、深さ20cmを測る。

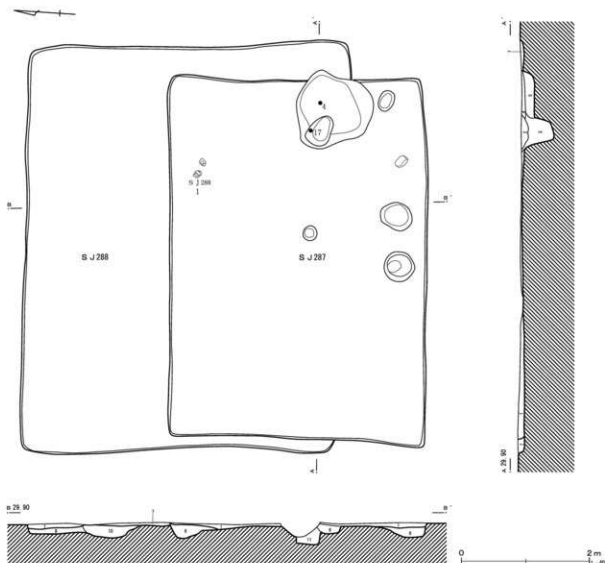
遺物は、土師器環・高台付埴・台付甕・甕、須恵器環・高台付埴・瓶底部、灰釉陶器耳皿、緑釉陶器片と棒状鉄製品と鉄製釘の可能性がある角柱状棒状品が出土した。

第288号住居跡 (第14・16図)

J・K-13・14グリッドに位置し、下層で検出された。第287号住居と重複し、南半が切られて当

第287号住居跡出土遺物観察表 (第15図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色割	残存	出土位置	備考
1	土師環	12.8	3.9	6.5	ABF	普通	橙	90	覆土	黒書「木」
2	土師環	(13.0)	3.8	(6.6)	B F J	普通	にぶい橙	30	覆土	
3	土師環	(14.0)	4.5	(6.6)	B J	普通	にぶい橙	40	覆土	口縁部外面～体部内面横ナデ
4	須恵環			(5.8)	A C J K	良好	灰	30	カマド	
5	須恵環	(13.4)	4.3	(6.2)	A F J	普通	灰白	30	覆土	
6	土師高台埴			(6.6)	B F J	普通	橙	40	覆土	ロクロ土師器
7	須恵高台埴			(9.0)	C F I J	良好	灰黄褐	40	覆土	底部内面一部油煙付着
8	須恵高台埴			6.0	A J	普通	灰白	70	覆土	
9	須恵高台埴			6.0	A J	普通	灰褐	60	覆土	酸化焙焼成
10	須恵高台埴			(6.4)	A J	普通	黒	40	覆土	
11	須恵長頸瓶			9.8	A J	良好	灰	90	覆土	体部外面下位へラ削り
12	灰釉耳皿		3.4	5.1	A K	良好	灰白	75	覆土	高台内赤きり 底部内面自然釉
13	緑釉陶器				G	普通	—	破片	覆土	糞投座
14	土師甕	(21.7)			A F G	良好	灰黄	15	覆土	
15	土師甕	(14.5)			A B	良好	灰黄褐	20	覆土	
16	土師甕	(9.9)			A B	良好	黒褐	25	覆土	
17	土師甕		4.0		A F G	良好	明黄褐	30	カマド	西部一方向へラ削り
18	土師台付甕				A B F J	良好	にぶい橙	30	覆土	
19	鉄製丸棒	長さ14.91cm		径0.4～1.6cm			—	—	覆土	紡錘車輪か
20	鉄製釘	長さ4.41cm		径0.35cm			—	—	覆土	



第287・288号住居跡

- | | | | |
|---------|----------------------------|----------|-----------------------------------|
| 1 褐色土 | 焼土粒・炭化物少量 黄褐色土多量 | 6 暗灰黄褐色土 | 黄褐色土少量 (S J 287 掘り方埋土) |
| 2 黄褐色土 | 灰褐色土を層状に含む (S J 287 掘り床) | 7 暗灰色土 | 焼土粒・炭化物少量 灰褐色土層状に含む (S J 288 掘り床) |
| 3 黒色土 | 焼土粒・炭化物・褐色土少量 黄褐色土多量 (カマド) | 8 暗黄褐色土 | 黄褐色土ブロック・褐色土ブロック多量 |
| 4 褐色土 | 炭化物層 黄褐色土ブロック多量 (カマド) | 9 褐色土 | 黄褐色土粒・同ブロック少量 炭化物粒微量 |
| 5 明黄褐色土 | 灰層 灰褐色土・灰の交層 (カマド) | 10 暗褐色土 | 黄褐色土粒・褐色土粒多・焼土粒微量 (床下土塊) |
| | 焼土粒・灰・灰褐色土ブロック多量 炭化物少量 | 11 黄褐色土 | 黄褐色土と褐色土の混土層 |

第14図 第287・288号住居跡

住居跡が古い。規模は、主軸長南北6.46m、東西5.12m、平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、南壁にカマドが設けられていたとすると、N-179°-Eを指す。

遺物は、土師器環・甕と土錘が出土した。

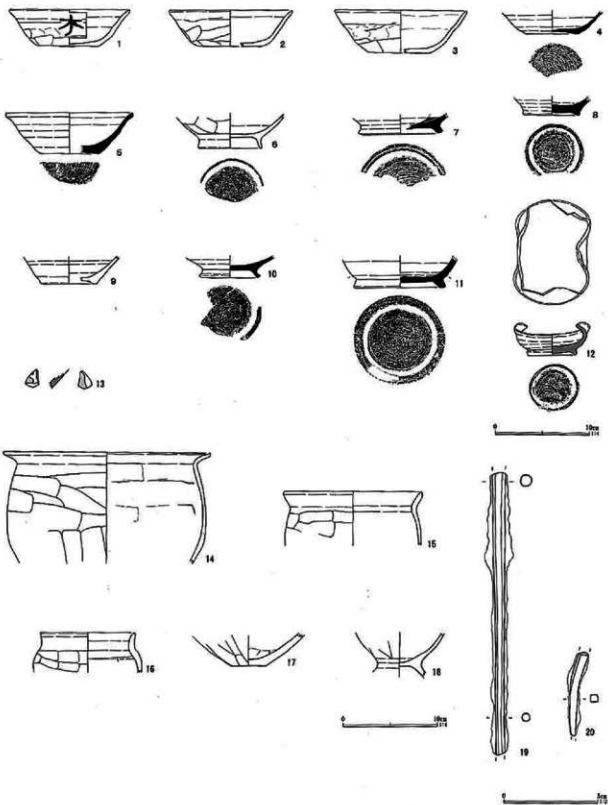
第290号住居跡 (第17・18図)

N-19グリッドに位置する。第87・92号溝と重複し、北壁に沿って、第87号溝が東西に貫通し、

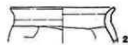
南壁は第92号溝に切られ、いずれの溝より古い。規模は、主軸長東西4.72m、確認できた南北3.38m、深さ20cm程を測る。平面形は、長方形を呈すると推定される。主軸方位は、N-98°-Eを指す。

貯蔵穴は、カマド袖の北に設けられており、北側は第87号溝に壊されている。規模は東西81cm、確認できた南北67cmの長方形で、深さ71cmを測る。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、97



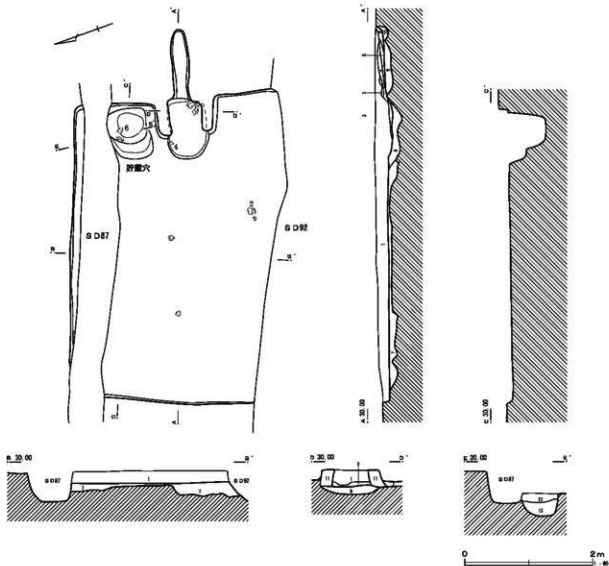
第15图 第287号住居跡出土遺物



第16図 第288号住居跡出土遺物

第288号住居跡出土遺物観察表 (第16図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師杯	(13.0)	3.9	6.8	B F J	普通	褐色	70	床直	
2	土師壺	(10.4)			A B F	良好	にぶい赤褐色	25	覆土	
3	土師	長さ(2.8)	径1.2	孔径0.3		普通	にぶい褐色	40	覆土	



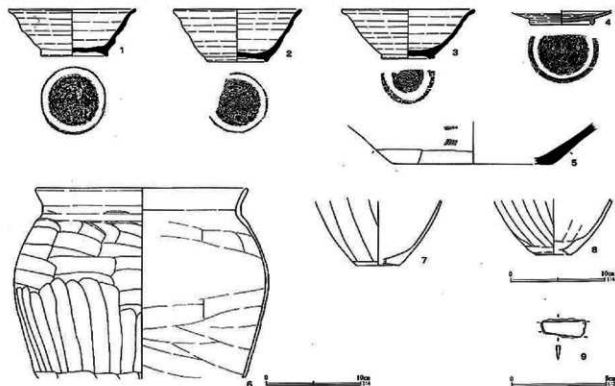
- 1 暗褐色土 白色粒少量 焼土粒・炭化物微量
- 2 棕色土 灰層 焼土粒・焼土ブロック・灰の混入
- 3 暗褐色土 焼土粒・焼土ブロック多量 (カマド天井層直上)
- 4 暗褐色土 (西透層土)
- 5 暗赤褐色土 焼土層 (壁直下層)
- 6 暗褐色土 (西透層下層)
- 7 暗褐色土 白色粒少量 焼土粒・炭化物微量 (鉄り床)

- 8 暗褐色土 焼土粒・焼土ブロック・炭化物少量
- 9 暗褐色土ブロック多量 (カマド廻り方)
- 10 暗赤褐色土 灰色粒を含む (壁透層り方)
- 11 暗赤褐色土 灰色粒十含む (壁透層り方)
- 12 暗赤褐色土 白色粒・黄褐色土少量
- 13 暗赤褐色土 焼土粒少量 炭化物微量 (貯蔵穴)

第17図 第290号住居跡

cm×58cm、深さ20cmを測る。煙道部は、長さ107cmが確認できた。

遺物は、須恵器高台付壺・甕、灰釉陶器高台付皿・土師器甕と鉄製刀子の切先に近い刃部破片が出土した。



第18図 第290号住居跡出土遺物

第290号住居跡出土遺物観察表 (第18図)

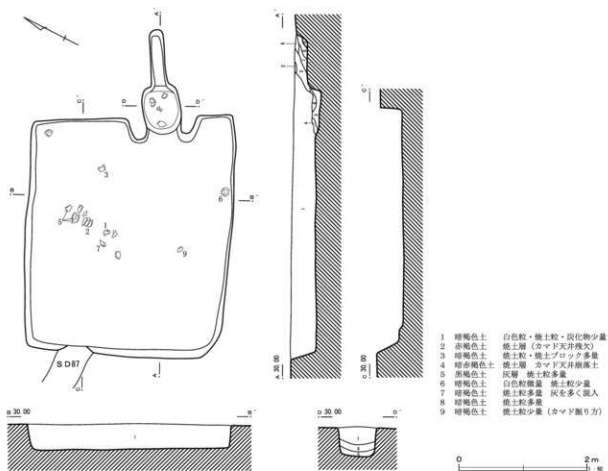
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台壺	13.6	5.0	7.1	A B J	普通	灰	80	覆土	磨耗甚しい
2	須恵高台壺	(13.6)	5.5	6.2	B J	普通	灰	40	床直	底部回転糸切り
3	須恵高台壺	(14.0)	5.3	5.6	A B J	普通	灰白	50	覆土	底部回転糸切り やや歪みあり
4	灰釉高台皿			6.2	A G	良好	灰白	60	カマド	高台内ヘラ削り 内外面ハケメリ 浜北産
5	須恵甕	(22.0)		(17.0)	A G J K	普通	灰	10	覆土	体部外面下端～底部回転ヘラ削り
6	土師甕				A C F	良好	橙	30	貯蔵穴	
7	土師甕			(4.7)	A B F G	普通	にぶい黄橙	20	覆土	
8	土師甕			(3.9)	B F	普通	褐灰	60	覆土	
9	鉄製刀子	長さ12.3cm	刃幅0.6～0.8cm	背幅0.2cm					刃部	カマド

第291号住居跡 (第19・20図)

M・N-20グリッドに位置する。第296号住居跡と重複し、当住居跡の方が新しい。規模は、主軸長東西3.84m、南北3.24m、深さ38cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-63°-Eを指す。

カマドは、東側やや南寄りに設けられている。燃焼部は、76cm×63cm、深さ12cmを測る。煙道部は、長さ88cmが確認できた。

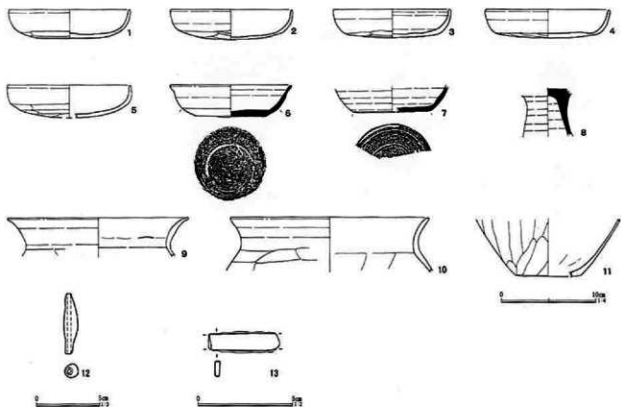
遺物は、土師器坏・壺、須恵器坏・高台盤、土師と用途は不明であるが磁板状の鉄製品が出土した。



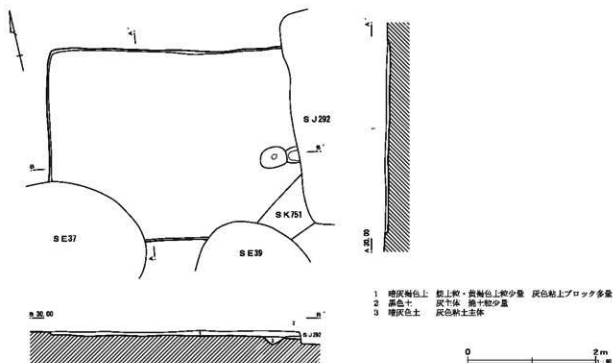
第19図 第291号住居跡

第291号住居跡出土遺物観察表（第20図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師環	12.7	3.0		ABG	普通	橙	55	覆土	
2	土師環	12.6	3.1		ABF	良好	にぶい橙	90	覆土	
3	土師環	(12.4)	3.0		ACF	普通	にぶい橙	40	覆土	体部下位内面～底部内面外周横ナデ
4	土師環	(12.5)	3.0		CF	良好	にぶい橙	50	覆土	口縁部外面～体部内面横ナデ
5	土師環	12.9	3.5		ABF	良好	橙	95	覆土	
6	須恵環	12.9	3.4	7.5	AC I J K	普通	にぶい黄橙	95	覆土	やや磨耗する 体部外面下端にヘラ削り及ぶ
7	須恵環			(8.4)	AH	良好	灰	30	覆土	底部回転ヘラ削り
8	須恵高盤				AJ	良好	灰	脚部	覆土	
9	土師甕	(18.8)			ABF	良好	にぶい褐	15	覆土	
10	土師甕	(20.2)			ACF	良好	橙	20	覆土	
11	土師甕			(6.8)	ABF J	普通	橙	10	カマド	
12	土師	長さ4.8	径1.15	孔径0.3		普通	浅黄橙	100	覆土	
13	鉄製延板品	長さ3.7cm	厚さ0.2～0.25cm						覆土	



第20図 第291号住居跡出土遺物



第21図 第293号住居跡

第293号住居跡 (第21・22図)

J・K-18・19グリッドに位置する。第292号住居跡・第751号土坑・第37・39号井戸跡と重複し、いずれの遺構にも切られていことから当住居跡が最も古い。規模は、確認できた主軸長東西3.84m、南北3.04m、深さ8cm程を測る。平面形は、長方

形を呈する。主軸方位は、N-97°-Eを指す。

カマドは東壁中央に設けられ、第292号住居跡にほとんどが切られており、確認できたのは22cm×26cm、深さ7cmを測る。

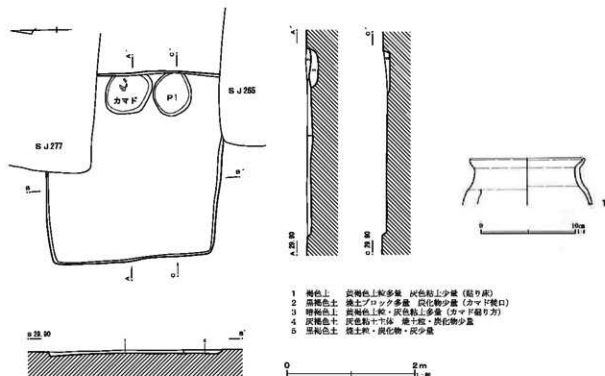
遺物は、土師器甕・須恵器瓶が出土した。



第22図 第293号住居跡出土遺物

第293号住居跡出土遺物観察表 (第22図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師甕	(19.7)			C F G J	普通	にぶい黄褐色	15	覆土	口縁部納短一部付着
2	須恵瓶			(10.4)	A J	良好	灰	15	覆土	



- 1 褐色土 炭褐色土粒多量 灰色粘土少量 (粘り味)
- 2 高褐色土 黄土ブロック多量 炭化物少量 (カマド開口)
- 3 暗褐色土 炭褐色土粒・炭化物多量 (カマド粘り力)
- 4 灰褐色土 灰色粘土主体 炭土粒・炭化物少量
- 5 黒褐色土 黄土粒・炭化物・炭少量

第23図 第294号住居跡・出土遺物

第294号住居跡出土遺物観察表 (第23図)

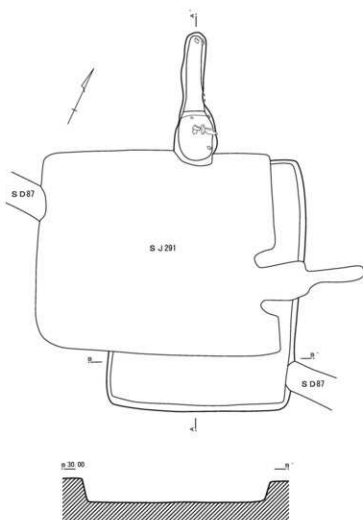
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師甕	11.9			A B F	良好	にぶい橙	60	覆土	

第294号住居跡 (第23図)

J-18・19グリッドに位置する。第265・277号住居と重複し、両住居跡に切られていることから当住居跡が古い。規模は、主軸長東西3.00m、南北2.76m、深さ6cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-93°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃烧部は、64cm×73cm、住居跡床面と同じ深さである。

遺物は、土師器壺が出土した。



第24図 第296号住居跡

第296号住居跡 (第24・25図)

M・N-20グリッドに位置する。第291号住居と重複し、東西に第87号溝が貫通している。住居跡に切られていることから第291号住居跡より古い。規模は、主軸長南北3.93m、東西2.98m、深さ37cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-27°-Wを指す。

カマドは、北壁に設けられている。燃烧部は、90cm×68cm、深さ13cmを測る。煙道部は、長さ96cm



- 1 暗褐色土 白色粒少量 焼土粒・炭化物微量
- 2 暗赤褐色土 焼土ブロック多量 カマド天井崩落土
- 3 暗褐色土 1層近似 焼土粒少量
- 4 灰色土 灰層 焼土粒少量
- 5 暗赤褐色土 灰褐色年変少量 焼土粒多量 炭化物微量
- 6 暗褐色土 灰少量 (煙道廻り方)

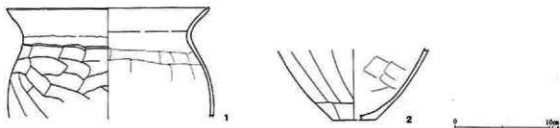
0 2m

第296号住居跡出土遺物観察表 (第25図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師壺	(21.3)			A F G	普通	明赤褐	70	カマド	
2	土師壺			(4.5)	B F G	普通	灰褐	15	カマド	

が確認できた。

遺物は、土師器壺が出土した。



第25図 第296号住居跡出土遺物

第297号住居跡 (第26・27図)

J-13・14グリッドに位置し、下層で検出された。第31号掘立柱建物跡と重複し切っており、当住居跡が新しい。規模は、主軸長東西3.56m、南北2.67m、深さ3cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-94°-Eを指す。

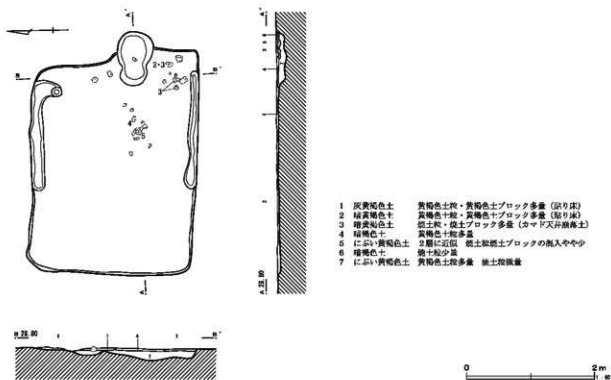
壁溝は、北壁・南壁の一部にあり、幅10~21cm、深さ3~4cmを測る。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、85cm×55cm、深さ10cm程を測る。

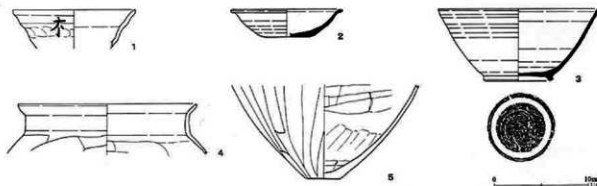
遺物は、土師器環・壺、須恵器環・高台付碗が出土した。

第298号住居跡 (第28・29図)

K-19グリッドに位置する。第308・309号住居跡と重複し、北壁は、攪乱により壊されている。両住居跡を切っており、当住居跡が最も新しい。規模



第26図 第297号住居跡



第27図 第297号住居跡出土遺物

第297号住居跡出土遺物観察表 (第27図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色割	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.8)			A F J	普通	にぶい襷	30	覆土	黒寄土器
2	須恵坏	(11.3)	3.0	(4.5)	A F K	普通	黒梅	20	床直	土師質
3	須恵高台埴	(17.0)	7.6	7.4	A F J K	良好	灰	60	床直	やや赤みあり
4	土師甕	(18.8)			A F J	普通	にぶい襷	15	床直	
5	土師甕			3.5	A F J	普通	灰襷	20	床直	

は、主軸長東西3.76m、確認できた南北3.05m、深さ16cm程を測る。平面形は、方形を呈するとみられる。主軸方位は、N-93°-Eを指す。

壁溝は、南壁と西壁の一部にあり、幅15~20cm、深さ10cm程を測る。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、95cm×77cm、深さ13cm程を測る。煙道部は、長さ95cmが確認できた。

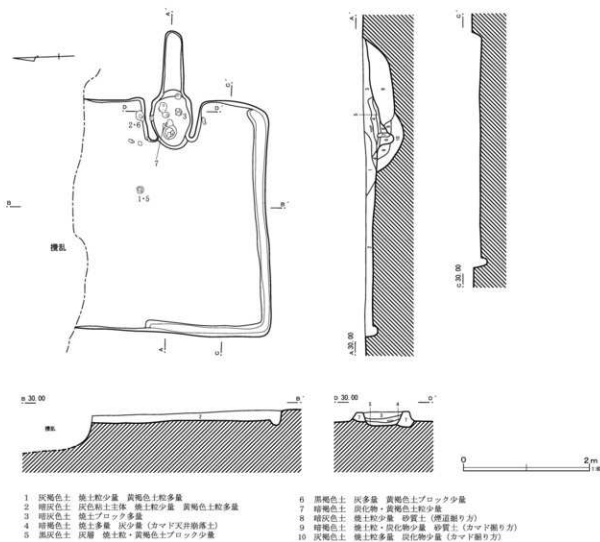
遺物は、土師器坏・高台付埴・台付甕・甕、須恵器埴・高台付埴、灰胎陶器高台付埴土釘が出土した。

第301号住居跡 (第30・31図)

L-19・20グリッドに位置する。規模は、主軸長東西3.30m、南北J3.96m、深さ14cm程を測る。平面形は、台形を呈する。主軸方位は、N-94°-Eを指す。

カマドは、東壁やや北寄りに設けられている。燃焼部は、106cm×53cm、深さ10cm程を測る。煙道部は、長さ54cmが確認できた。

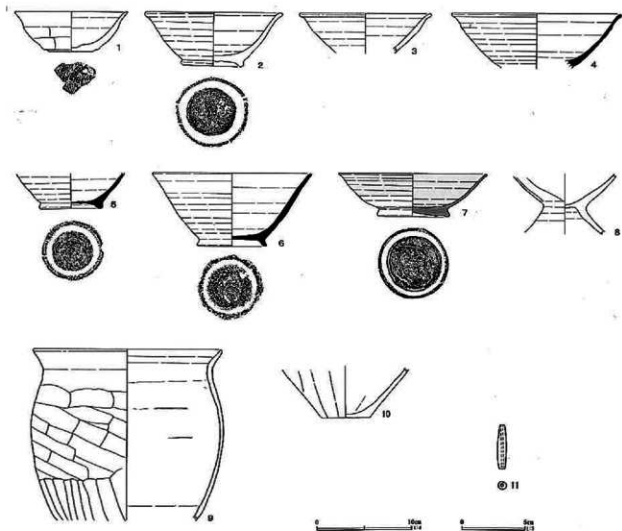
遺物は、土師器高台付埴・甕、須恵器坏・蓋が出土した。



第28図 第298号住居跡

第298号住居跡出土遺物観察表（第29図）

番号	器種	口径	口径	口径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師環	(11.9)	(4.2)	(4.6)	A F	不良	にぶい橙	30	覆土	底部回転糸切り痕
2	土師高台埴	14.5	5.7	6.7	A B F J	普通	橙	80	覆土	ロクロ土師器 内外面やや磨耗
3	須恵埴	(14.0)			B F J	普通	にぶい黄橙	50	床直	体部酸化焙焼成
4	須恵埴	(18.0)			D J K	普通	褐灰	30	覆土	
5	須恵高台埴			6.7	A J K	普通	灰黄	60	床直	内外面磨耗
6	須恵高台埴	(16.6)	7.8	7.3	A B F J	普通	にぶい橙	40	カマド	内面やや磨耗
7	灰軸高台埴	(15.7)	4.6	7.6	A G	良好	灰白	80	カマド	高台内糸切り 青軸ツケガケ やや歪みあり 底部内面酸化物付着 東濃産
8	土師台付甕				A B G	普通	赤褐	40	覆土	
9	土師甕	(19.7)			A F J	普通	にぶい橙	15	カマド	
10	土師甕			(5.0)	A B F J	普通	にぶい黄橙	20	覆土	
11	土鉢	長さ3.5	径0.65	孔径0.15		普通	灰黄	100	覆土	



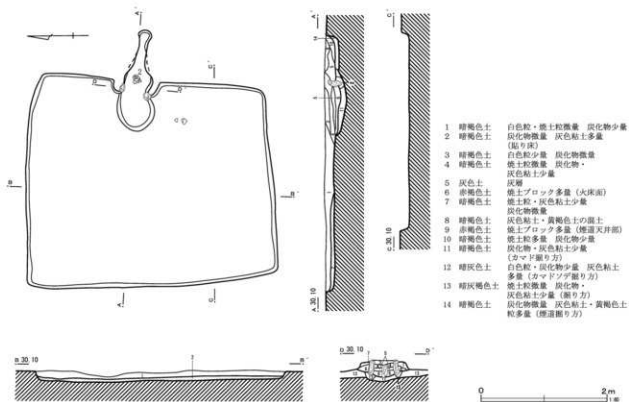
第29図 第298号住居跡出土遺物



第30図 第301号住居跡出土遺物

第301号住居跡出土遺物観察表 (第30図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏			5.8	ACJK	良好	褐灰	60	覆土	高台剥離 天井部右回転ヘラ削り
2	上節高台坏		(6.2)		BFJ	良好	にぶい橙	80	カマド	
3	須恵葺	15.5	3.9		AFJK	良好	浅黄	100	覆土	
4	土師甕	(17.9)			AF	普通	暗褐	20	覆土	



第31図 第301号住居跡

第302号住居跡 (第32・33図)

L-19・20グリッドに位置する。北壁に沿って、第31号掘立柱建物跡・第59号溝と重複し、溝跡・住居跡・掘立柱建物跡の順に古くなる。規模は、主軸長東西5.66m、南北4.34m、深さ18cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-88°-Eを指す。

壁溝は、北壁を除いて確認でき、幅16~22cm、深さ11~15cmを測る。

貯蔵穴は、南東隅に設けられており、96cm×70cmの長方形で、深さ20cmを測り、底面に円形ピットがあり深さ13cmを測る。

カマドは、東壁やや南よりに設けられている。燃燒部は、93cm×53cm、深さ17cmを測る。煙道部は、長さ132cmが確認できた。

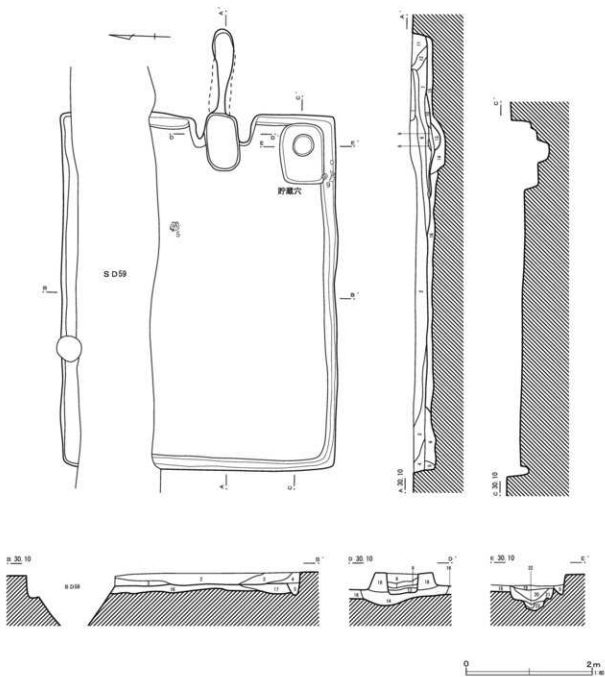
遺物は、土師器杯・台付甕・甕、須恵器高台付碗、灰釉陶器碗・高台付皿の外に羽口、土錘と鉄製釘・板状の用途不明品が出土した。

第305号住居跡 (第34・35・36図)

M-20・21グリッドに位置する。第320号住居跡と重複して切っており、当住居跡が新しい。規模は、主軸長東西5.35m、南北3.92m、深さ38cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。カマドのある北東壁と南東壁に棚状施設がある。主軸方位は、N-58°-Eを指す。

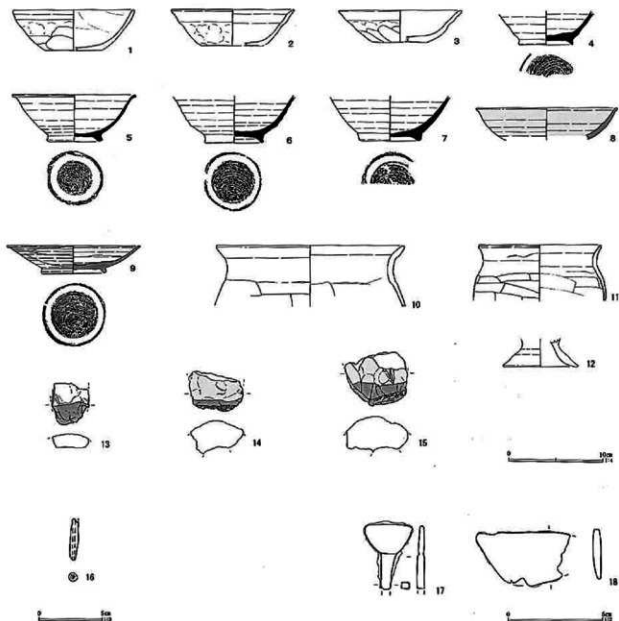
壁溝はほぼ全周し、幅10~18cm、深さ2~8cmを測る。

遺物は、土師器杯・台付甕・甕、須恵器杯・甕・瓶と鉄製刀子が出土した。



- | | | | |
|----------|--------------------------|----------|---------------------------------|
| 1 赤褐色土 | 灰色粘土主体 焼土層 (カマド天井残穴) | 12 暗褐色土 | 焼土粒・炭化物少量 |
| 2 灰褐色土 | 白色粒・炭化物少量 焼土粒微量 | 13 暗赤褐色土 | 焼土粒・炭化物、灰色粘土多量 |
| 3 灰褐色土 | 白色粒微量 焼土粒、灰色粘土少量 炭化物やや多量 | 14 暗褐色土 | 焼土粒多量 炭化物、灰色粘土、黄褐色土粒少量 (カマド廻り方) |
| 4 暗褐色土 | 焼土粒、炭化物微量 灰色粘土混入 | 15 暗褐色土 | 焼土ブロック少量 炭化物微量 (焼土廻り方) |
| 5 暗灰褐色土 | 白色粒・焼土粒微量 炭化物少量 周溝層土 | 16 暗灰褐色土 | 焼土粒やや多量 炭化物少量 灰色粘土多量 (廻り方) |
| 6 灰褐色土 | 焼土粒微量 炭化物少量 灰色粘土多量 | 17 暗灰褐色土 | 焼土粒、炭化物微量 灰色粘土少量 床面は硬化する (廻り方) |
| 7 暗灰色土 | 焼土粒微量 炭化物、灰色粘土少量 | 18 灰褐色土 | 白色粒少量 灰色粘土多量 内面は焼土化 |
| 8 赤褐色土 | 焼土層 (カマド天井跡高土) | 19 暗灰褐色土 | 白色粒、灰色粘土少量 焼土粒、炭化物微量 (野蔵穴) |
| 9 黒色土 | 灰層 | 20 暗灰褐色土 | 白色粒微量 焼土粒、炭化物多量 (野蔵穴) |
| 10 暗赤褐色土 | 焼土ブロック多量 炭化物少量 (燃焼部) | 21 暗褐色土 | 炭化物、灰色粘土少量 褐色土ブロック多量 (野蔵穴) |
| 11 黒褐色土 | 炭化物・灰多量 | 22 灰色土 | 灰色粘土主体 炭化物少量 (野蔵穴) |
| | | 23 暗褐色土 | 暗褐色土、灰色粘土の混土層 (野蔵穴) |

第32図 第302号住居跡



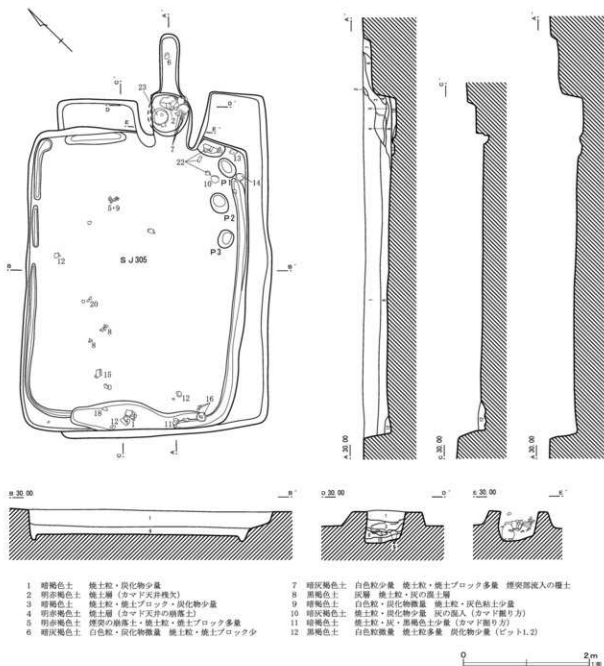
第33図 第302号住居跡出土遺物

第302号住居跡出土遺物観察表 (第33図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師環	(12.8)	3.3	(6.0)	ABJ	普通	褐	20	覆土	
2	土師環	(13.0)	3.9	(6.6)	ABFJ	普通	にぶい橙	15	覆土	
3	土師環	(13.0)	3.4	6.0	AFJ	普通	橙	70	カマド貯蔵穴	口縁部内外面横ナデ
4	須惠高台碗			(5.8)	ACJK	良好	黄灰	30	覆土	底部回転糸切り
5	須惠高台碗	13.1	5.0	5.8	AJK	良好	灰	90	覆土	底部回転糸切り
6	須惠高台碗			6.2	ACGK	良好	灰	40	覆土	底部回転糸切り
7	須惠高台碗			(6.4)	AGJ	普通	灰	40	覆土	
8	灰釉碗	(14.7)			AGJ	普通	灰白	20	覆土	施釉内外面ハケメリ 東濃産
9	灰釉高台皿	14.2	3.0	6.8	AGJ	良好	灰白	95	壁溝	高台内ヘラ削り 内外面ハケメリ 内面重ね焼き痕 浜北産
10	土師甕	(19.7)			ABFJ	普通	褐	15	貯蔵穴	
11	土師甕	(12.7)			ACF	良好	にぶい褐	25	カマド貯蔵穴	
12	土師台付甕			(7.8)	ABF	普通	にぶい橙	30	カマド裏り方	

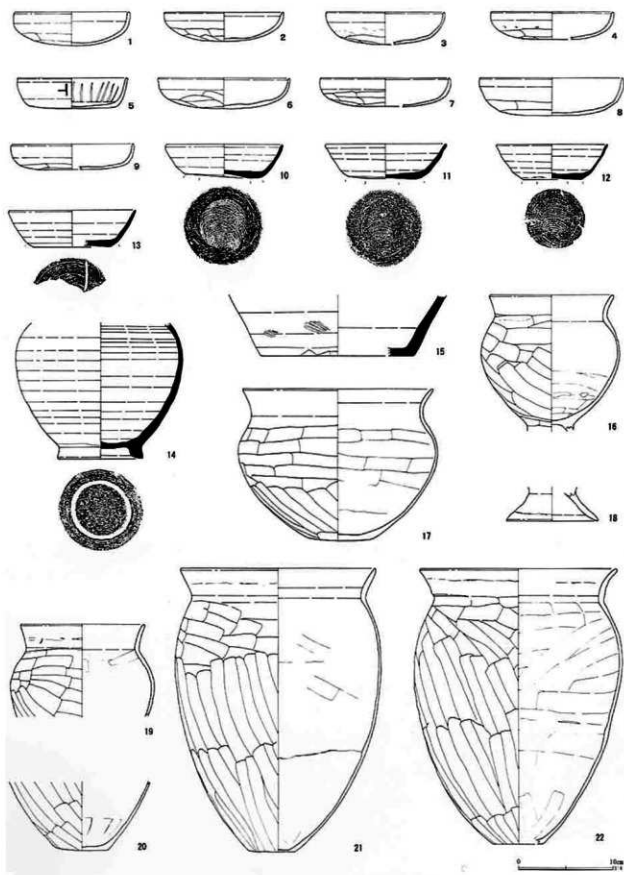
第302号住居跡出土遺物観察表 (第33図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
13	羽口	長さ4.4	幅3.9	厚さ1.5			—	—	覆土	
14	羽口	長さ4.4	幅5.7	厚さ3.45			—	—	カマド裏り方	
15	羽口	長さ5.7	幅6.6	厚さ3.7			—	—	覆土	
16	土鍾	長さ(3.3)	径0.7	孔径0.3	普通	オリブ黒		90	覆土	
17	鉄製釘	長さ[3.4]cm	幅0.35×0.4cm	頭部幅2.5cm					覆土	頭部扇状
18	鉄製延板	長さ[4.9]cm	厚さ0.2~0.4cm						覆土	用途不明 鋳造品か

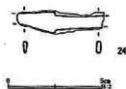
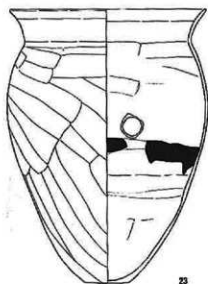


- | | |
|---|---|
| <p>1 暗褐色土 焼土粒・炭化物少量</p> <p>2 明赤褐色土 焼土層 (カマド天井残欠)</p> <p>3 暗褐色土 焼土粒・焼土ブロック・炭化物少量</p> <p>4 明赤褐色土 焼土層 (カマド天井の崩落土)</p> <p>5 明赤褐色土 煙突の基部土・焼土粒・焼土ブロック多量</p> <p>6 暗褐色土 白色粒・炭化物微量 焼土粒・焼土ブロック少</p> | <p>7 暗灰褐色土 白色粒少量 焼土粒・焼土ブロック多量 煙突基部の礎土</p> <p>8 黒褐色土 灰層 焼土粒・灰の混入層</p> <p>9 暗褐色土 白色粒・炭化物微量 焼土粒・灰色粘土少量</p> <p>10 暗灰褐色土 焼土粒・炭化物少量 灰の混入 (カマド裏り方)</p> <p>11 暗褐色土 焼土粒・灰・黒褐色土少量 (カマド裏り方)</p> <p>12 黒褐色土 白色粒微量 焼土粒多量 炭化物少量 (ピットL2)</p> |
|---|---|

第34図 第305号住居跡



第35图 第305号住居跡出土遺物



第36図 第305号住居跡出土遺物

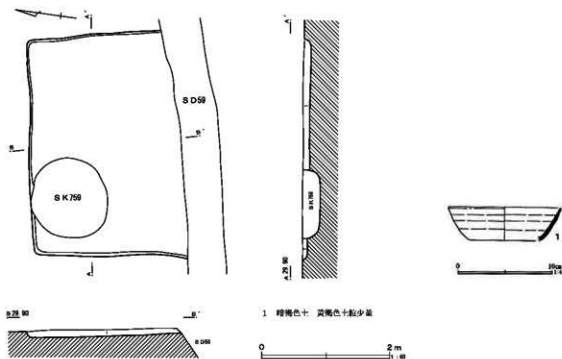
第305号住居跡出土遺物観察表 (第35・36図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師環	12.0	3.6		ABG	普通	橙	100	壁溝	
2	土師環	(12.6)	3.1		ABJ	普通	橙	50	カマド	口縁部内面一部に油煙
3	土師環	(12.6)	3.4		ABJ	普通	にぶい赤褐	40	覆土	口縁部内面一部に油煙
4	土師環	(13.0)	2.9		ABFJ	普通	にぶい橙	25	覆土	
5	土師環	11.6	3.2		FG	普通	にぶい橙	90	床直	陶文土器 外面体部に墨書
6	土師環	(14.0)	3.2		ABJ	普通	橙	30	カマド	底部内面に油煙付着
7	土師環	(13.6)	3.0		ABJ	普通	橙	60	カマド	
8	土師環	15.0	4.0		ABCJ	普通	橙	80	覆土	
9	土師環	(12.7)	2.6		ABF	普通	橙	30	床直	
10	須恵環	12.4	3.6	8.0	AHJ	良好	灰	100	床直	底部回転糸切り
11	須恵環	12.9	3.7	7.8	AFHJK	普通	にぶい赤褐	70	床直	底部のみ酸化焙焼成
12	須恵環	(12.0)	3.7	6.2	AJK	良好	灰	60	覆土	底部回転糸切り、周辺回転ヘラ残り
13	須恵環	(13.4)	3.9	(8.0)	AJK	良好	灰白	30	覆土	体部外面下端～底部ヘラ残り
14	須恵瓶			9.0	AGJK	良好	オリーブ黒	75	床直	外面自然蝕
15	須恵壺			(16.0)	AGJ	普通	灰	20	床直	体部下端外面←方向ヘラ残り
16	土師台付甕	12.9			CFGJ	普通	橙	70	壁溝	
17	土師甕	19.7	16.1	6.5	ACFJ	普通	橙	85	覆土	
18	土師台付甕			9.5	AJK	普通	にぶい赤褐	80	壁溝	
19	土師甕	(12.9)			ACF	普通	にぶい褐	35	覆土	
20	土師甕			5.5	ACF	普通	暗褐	70	覆土	
21	土師甕	20.4	30.1	4.9	ACFG	良好	明赤褐	80	覆土	
22	土師甕	20.5	29.2	(5.2)	ACFGJ	良好	橙	80	床直	
23	土師甕	20.5	29.0	4.7	AFJ	普通	にぶい橙	100	カマド	
24	鉄製刀子	長さ4.6cm			刃幅0.6～1.1cm		青銅0.2cm		覆土	胴部中位に円形孔 胴部内面に油煙付着

第307号住居跡 (第37図)

K-21グリッドに位置する。第77・78・88溝確認面より上層で検出されていることから住居跡よりこれらの溝は古い。第59号溝・759号土坑と重複し、第59号溝と土坑に切られていることから当住居跡が古い。南カマドとすると規模は、確認できた主軸長南北2.43m、東西3.54m、深さ10cm程を測る。主軸方位は、N-79°-Eを指す。

遺物は、須恵器坏が出土した。



第37図 第307号住居跡・出土遺物

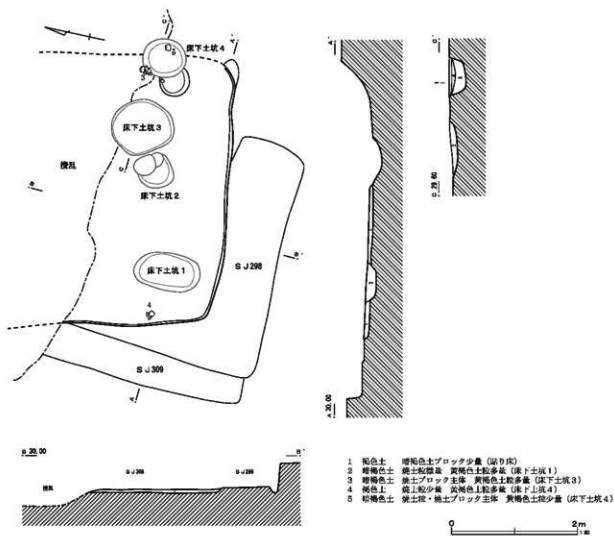
第307号住居跡出土遺物観察表 (第37図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(11.9)	3.5		AJ	普通	灰白	15	覆土	

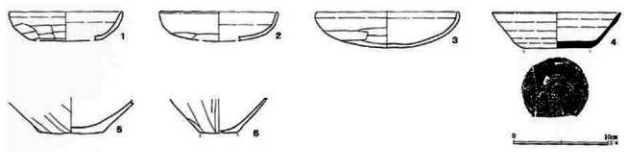
第308号住居跡 (第38・39図)

K-19グリッドに位置する。北側は攪乱されている。第298・304・309号住居跡と重複し、切られていることから当住居跡が最も古い。規模は、南壁で4.15m、確認できた西壁で2.19m、深さ43cm程を測る。南壁を基準にすると主軸方位は、N-83°-Eを指す。

遺物は、土師器坏・壺・台付壺、須恵器坏が出土した。



第38図 第308号住居跡



第39図 第308号住居跡出土遺物

第308号住居跡出土遺物観察表 (第39図)

番号	器種	口径	高さ	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師環	(11.9)			ACF	普通	橙	35	覆土	口縁部~体部上位外面横ナデ
2	土師環	(12.3)			AB	良好	にぶい橙	20	床下土坑4	口縁部外面~底部内面外周横ナデ
3	土師環	(15.0)	3.8		ACFJ	普通	橙	45	覆土	
4	梨形環	(13.4)	3.8	7.0	AGHK	良好	灰	55	床直	
5	土師壺			(6.8)	ABF	良好	黒褐	60	床直	
6	土師台付壺				ABJ	普通	にぶい黄橙	15	床下土坑4	

第309号住居跡 (第40・41図)

K-19グリッドに位置する。北側は攪乱されている。第298号住居と重複し、住居跡上半が切られていることから当住居跡が古い。規模は、東西3.35m、確認できた西壁で3.16m、深さ27cm程を測る。平面形は、やや台形を呈する。主軸方位は、 $N-92^{\circ}-E$ を指す。

遺物は、土師器環・甕・甌、須恵器蓋が出土した。

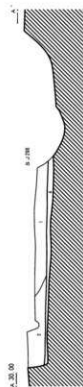
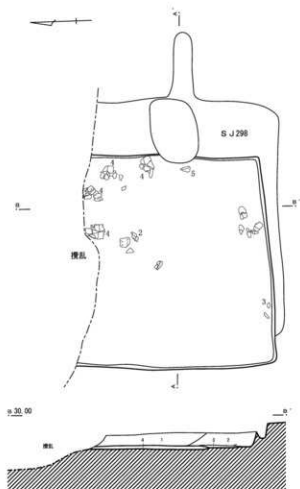
第310号住居跡 (第42・43図)

K・L-19グリッドに位置する。第24・26号掘立柱建物跡・第738号土坑・第59号溝と重複し、当住居跡が最も古い。規模は、主軸長東西4.52m、南北4.33m、深さ43cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、 $N-87^{\circ}-E$ を指す。

壁溝は全周し、幅18~35cm、深さ6~10cmを測る。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、146cmが残存していた。

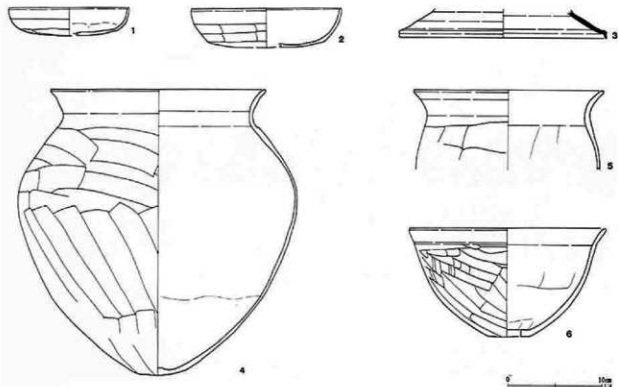
遺物は、土師器環、須恵器環が出土した。



- 1 暗褐色土 白色粒・炭化物少量 鉄土粒多量
- 2 暗褐色土 白色粒・鉄土粒微量 黄褐色土粒多量
- 3 黒褐色土 灰多量 鉄土粒多量
- 4 褐色土 黄褐色土主体 (貼り床)

0 2m

第40図 第309号住居跡



第41図 第309号住居跡出土遺物

第309号住居跡出土遺物観察表 (第41図)

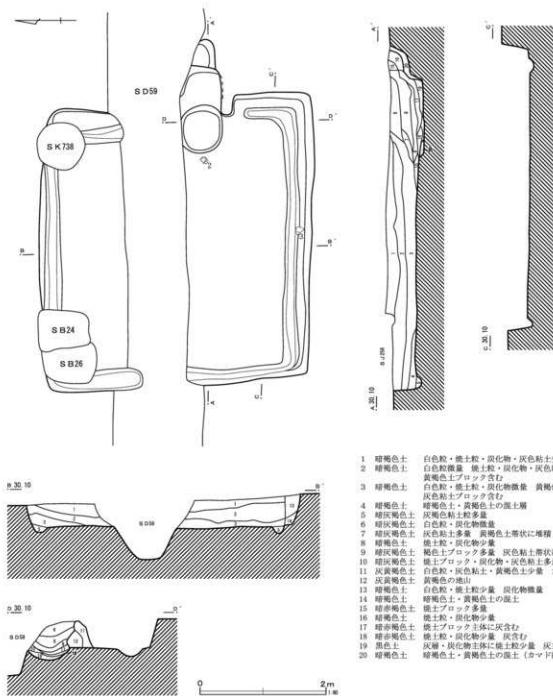
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師環	12.7	3.0		ABFJ	普通	橙	70	覆土	
2	土師環	(15.8)	4.1		AF	普通	にぶい褐	45	床直	
3	須恵蓋	(21.9)			GJK	普通	灰	30	床直	
4	土師甕	22.5	30.2	5.5	CFGJ	普通	にぶい黄橙	80	床直	
5	土師甕	(19.9)			ABF	良好	橙	40	床直	
6	土師甕	20.6	11.5	4.5	ACF	普通	橙	85		底部孔径2.3cm 焼成前穿孔



第42図 第310号住居跡出土遺物

第310号住居跡出土遺物観察表 (第42図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師環	(14.4)	3.8		ABFJ	普通	にぶい赤褐	60	覆土	
2	土師環	(13.0)	3.4		ABJ	普通	橙	25	床直	
3	土師環	(15.0)	4.2		ABJ	普通	橙	25	壁溝	
4	須恵環	(14.1)	3.5	9.1	CJK	良好	灰白	80	覆土	底部回転糸切り、周辺へう回り



第43図 第310号住居跡

第311号住居跡 (第44・45図)

K-19・20グリッドに位置する。第302号住居跡・第38号掘立柱建物跡・第729・732・737・793号土坑と重複し、南壁は、第302号住居跡に切られている。第793号土坑のみが当住居跡より古い。規模は、

主軸長東西4.47 m、確認できた南北2.48 m、深さ23 cm程を測る。平面形は、方形を呈すると推定される。主軸方位は、N-90°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃烧部は、100 cm × 55 cmで床面とほぼ同じ高さである。煙道

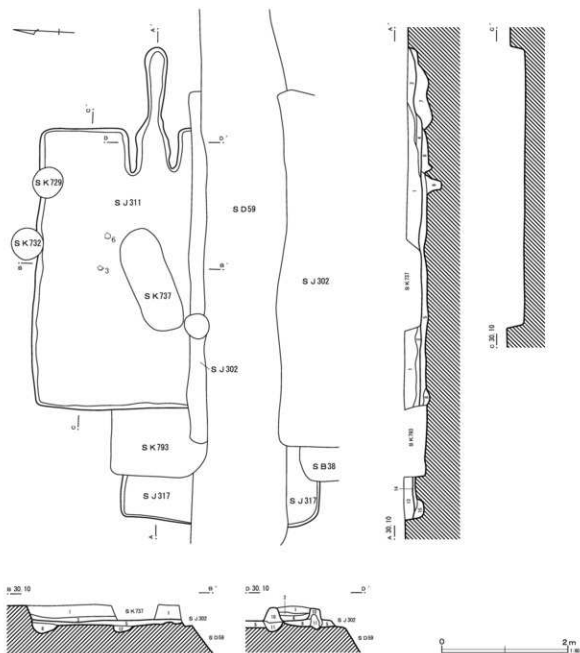
- 1 暗褐色土 白色粒・焼土粒・炭化物・灰色粘土少量
- 2 暗褐色土 白色粒微量 焼土粒・炭化物・灰色粘土少量 黄褐色土ブロック含む
- 3 暗褐色土 白色粒・焼土粒・炭化物微量 黄褐色土粒少量 灰色粘土ブロック含む
- 4 暗褐色土 暗褐色土・黄褐色土の混土层
- 5 暗灰褐色土 灰褐色粘土粒多量
- 6 暗灰褐色土 白色粒・炭化物微量
- 7 暗灰褐色土 灰色粘土多量 黄褐色土帯状に堆積 袖炭出土
- 8 暗褐色土 焼土粒・炭化物少量
- 9 暗灰褐色土 褐色土ブロック多量 灰色粘土帯状に堆積
- 10 暗灰褐色土 焼土ブロック・炭化物・灰色粘土多量 (カマド層上)
- 11 灰黄褐色土 白色粒・灰色粘土・黄褐色土少量 カマド焼結層土
- 12 灰黄褐色土 黄褐色の堆山
- 13 暗褐色土 白色粒・焼土粒少量 炭化物微量
- 14 暗褐色土 暗褐色土・黄褐色土の混土
- 15 暗赤褐色土 焼土ブロック多量
- 16 暗褐色土 焼土粒・炭化物少量
- 17 暗赤褐色土 焼土ブロック主体に灰含む
- 18 暗赤褐色土 焼土粒・炭化物少量 灰含む
- 19 黒色土 灰層・炭化物主体に焼土粒少量 灰主体
- 20 暗褐色土 暗褐色土・黄褐色土の混土 (カマド断面方)

部は、長さ105cmが確認できた。

遺物は、土師器環・高台付壺・台付甕・甕、須恵器環・高台付壺、灰胎陶器高台付皿と土錘が出土した。

第317号住居跡 (第44図)

K-19グリッドに位置する。第38号掘立柱建物跡・第793号土坑・第59号溝と重複し、すべてに切られており最も古い。規模は、南北3.15m、確

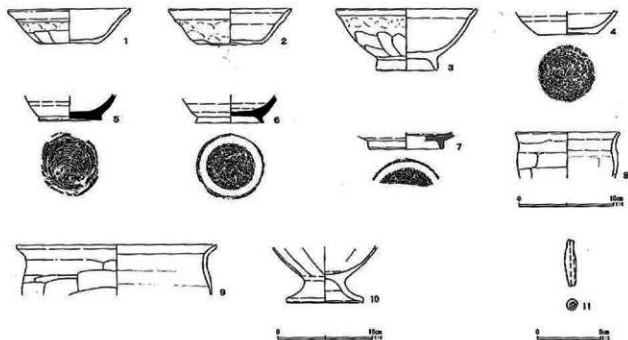


第311・317号住居跡

- | | | | |
|---|-------|--------------|-----------------|
| 1 | 暗褐色土 | 白色粘り少量 | 焼土粒・炭化物微量 |
| 2 | 暗褐色土 | 焼土粒・焼土ブロック多量 | カマド天井跡層土と1層の掘土層 |
| 3 | 暗灰褐色土 | 焼土粒・炭化物微量 | 灰色粘り土や多量 |
| 4 | 黒色土 | 炭層 | 焼土粒・炭化物微量 |
| 5 | 暗褐色土 | 灰色粘り土主体 | 白色粘り・黄褐色土粒少量 |
| 6 | 暗褐色土 | 黄褐色土多量 | 灰色粘り土ブロック少量 |
| 7 | 暗褐色土 | 黄褐色土粒少量 | (カマド掘り方) |

- | | | | |
|----|-------|---------------|-------------|
| 8 | 暗灰褐色土 | 黄褐色土粒多量 | (掘り方) |
| 9 | 暗褐色土 | 黄褐色土ブロック少量 | |
| 10 | 暗褐色土 | 灰色粘り・黄褐色土多量 | 焼土粒・炭化物少量 |
| 11 | 暗灰褐色土 | 灰色粘り・暗褐色土の掘土層 | 黄褐色土粒少量 |
| 12 | 暗褐色土 | 黄褐色土ブロック多量 | (床下土坑1) |
| 13 | 暗褐色土 | 白色粘り多量 | 焼土粒・黄褐色土粒少量 |
| 14 | 灰色土 | 灰色粘り土主体 | 黄褐色土粒少量 |
| 15 | 暗灰褐色土 | 灰色粘り土ブロック主体 | 焼土粒微量 |

第44図 第311・317号住居跡



第45図 第311号住居跡出土遺物

第311号住居跡出土遺物観察表 (第45図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師環	(13.0)	3.7	6.2	ABFJ	普通	灰褐	40	覆土	
2	土師環	(13.0)	3.8	6.8	ABFJ	普通	にぶい褐	40	覆土	
3	土師高台埴	(15.0)	6.5	6.4	ABFJ	普通	にぶい橙	40	覆土	体部外面下半へラ痕り
4	須恵環			6.0	CFH	普通	にぶい橙	80	覆土	酸化焙焼成 底面内面螺旋状へラ痕
5	須恵高台埴			6.5	ABCG	不良	灰白	80	覆土	底部回転糸切り
6	須恵高台埴			7.2	AG	普通	灰	70	覆土	
7	灰軸高台皿			(7.7)	G	良好	灰白	30	覆土	高台内糸切り 施軸ハケ塗り
8	土師甕	(10.8)			AF	普通	黒褐	30	覆土	
9	土師甕	(21.2)			ABCFJ	普通	淡黄橙	15	覆土	
10	土師付甕			(8.0)	ACF	良好	明橙	40	覆土	
11	土師	長さ3.7	径0.85	孔径0.25		普通	灰白	95	覆土	

認できた東西1.30m、深さ20cm程を測る。西基準とすると主軸方位は、N-0°-Eを指す。

第313号住居跡 (第46・47図)

L・M-20・21グリッドに位置し、下層で検出された。第319号住居跡・第770号土坑と重複し、新旧関係は土坑・第313号住居跡・第319号住居跡の順に古くなる。規模は、主軸長東西3.48m、南北3.36m、深さ48cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-76°-Eを指す。

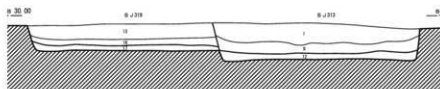
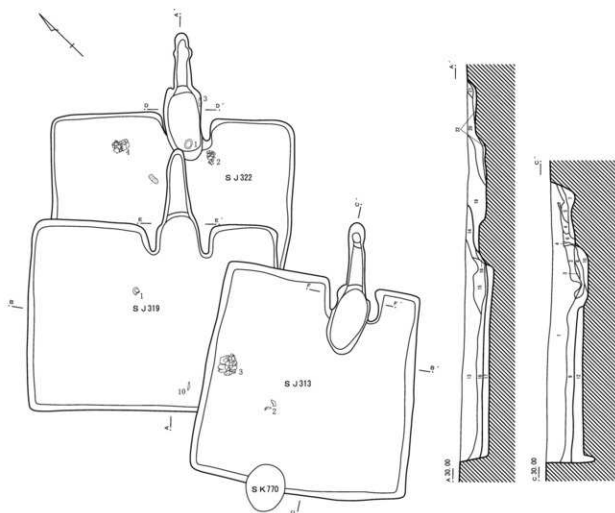
カマドは、東壁のやや南寄りに設けられている。燃焼部は、112cm×57cm、深さ10cm程を測る。煙

道部は、長さ98cmが確認できた。

遺物は、土師器環・甕、須恵器高台付埴が出土した。

第319号住居跡 (第46・48図)

L・M-20・21グリッドに位置し、下層で検出された。第313・322号住居跡と重複し、南壁が第313号住居跡に切られている。新旧関係は、第313号住居跡・第319号住居跡・第322号住居跡の順に古くなる。規模は、主軸長東西2.96m、南北3.84m、深さ34cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-65°-Eを指す。



第313・319・322号住居跡

- | | | |
|--|---|--|
| <p>1 暗褐色土 白色粒・焼土粒少量 炭化物微量
黄褐色土ブロック・黄褐色土粒やや多量 (S J 313)</p> <p>2 淡褐色土 灰褐色粘土・黄褐色土の混土 (S J 313 カマド天井部の混土)</p> <p>3 暗赤褐色土 焼土層 灰混入 (S J 313 カマド天井跡土)</p> <p>4 暗赤褐色土 焼土層 (S J 313)</p> <p>5 暗赤褐色土 焼土ブロック多量 (S J 313 煙突跡土)</p> <p>6 暗褐色土 黄褐色土主体 (S J 313)</p> | <p>7 暗黒灰色土 焼土粒と灰の混土層 (S J 313)</p> <p>8 暗灰褐色土 焼土粒・炭化物・灰少量 (S J 313)</p> <p>9 暗灰褐色土 白色粒・黄褐色土粒・黄褐色土ブロック少量 (S J 313)</p> <p>10 暗赤褐色土 焼土粒・焼土ブロック・炭化物・灰を含む (S J 313)</p> <p>11 淡赤褐色土 粘土主体 焼土化する (S J 313)</p> <p>12 淡灰褐色土 粘土主体 (S J 313 陥り床)</p> <p>13 暗灰黄色土 焼土粒・焼土ブロック少量 (S J 319)</p> <p>14 暗赤褐色土 焼土粒・焼土ブロック主体 (S J 319 カマド天井跡土)</p> | <p>15 暗灰褐色土 焼土粒多量 焼土ブロック少量 (カマド蓋土跡層土)</p> <p>16 暗灰褐色土 灰褐色粘土含む (S J 319)</p> <p>17 暗灰褐色土 焼土粒少量 炭化物微量
灰色粘土多量 (S J 319 陥り床)</p> <p>18 黄褐色土 灰主体 焼土粒・焼土ブロック多量</p> <p>19 暗褐色土 焼土粒少量 炭化物微量 (S J 322)</p> <p>20 赤褐色土 灰混入焼土層 (S J 322 カマド天井跡土)</p> <p>21 赤褐色土 焼土粒・焼土ブロック少量 (S J 322)</p> <p>22 暗褐色土 焼土粒・炭化物微量</p> |
|--|---|--|

第46図 第313・319・322号住居跡

カマドは、東壁に設けられている。燃烧部は、100cm×62cm、床面と同じ深さである。煙道部は、長さ100cmが確認できた。

遺物は、須恵器環・壺、土師器壺と鉄製刀子が出土した。

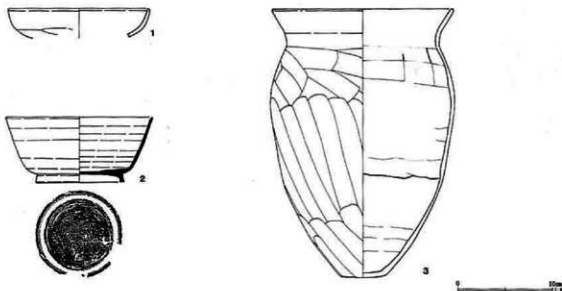
第322号住居跡（第46・49図）

L-20、L・M-21グリッドに位置し、下層で検出された。第313・319号住居跡と重複している。

当住居跡が最も古い。規模は、確認できた主軸長東西2.34m、南北3.84m、深さ19cm程を測る。主軸方位は、N-65°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃烧部は、119cm×55cm、深さ10cm程を測る。煙道部は、長さ84cmが確認できた。

遺物は、土師器環・壺が出土した。



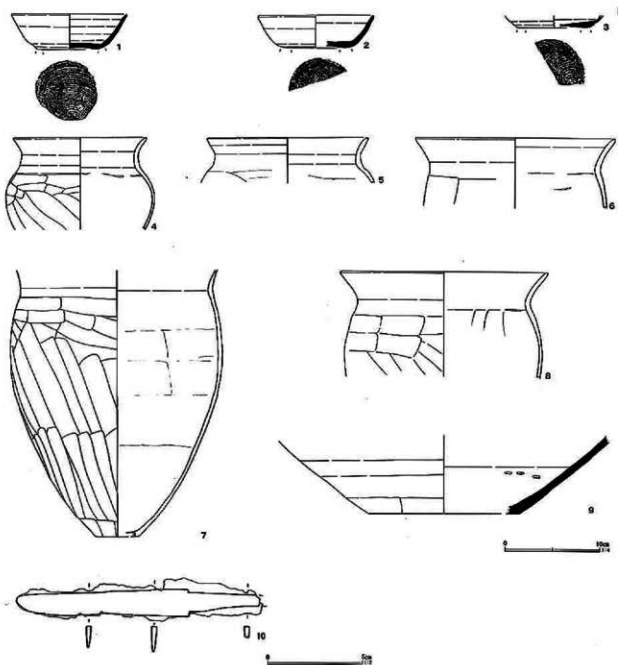
第47図 第313号住居跡出土遺物

第313号住居跡出土遺物観察表（第47図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師環	(14.8)			AB	普通	橙	10	覆土	
2	須恵高台碗	15.6	7.0	9.3	AJK	良好	黄灰	80	覆土	底面回転未切り
3	土師壺	(19.0)	28.5	4.7	ABFG	普通	にぶい褐	70	覆土	

第319号住居跡出土遺物観察表（第48図）

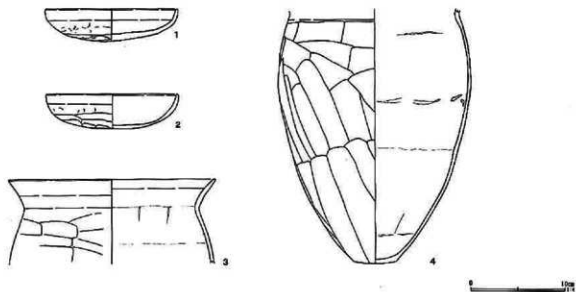
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵環	(12.2)	3.8	6.7	AJK	良好	黄灰	60	覆土	底面外面周辺へラ削りが体部下端とともに磨る
2	須恵環	(12.0)	3.4	(6.3)	A	良好	灰	25	覆土	体部外面下部回転へラ削り
3	須恵環			(7.8)	AHJ	良好	灰	20	覆土	底面回転未切り、周辺回転へラ削り
4	土師壺	(13.9)			ABFG	普通	にぶい赤褐	30	カマド	
5	土師壺	(16.7)			ABFG	普通	橙	20	カマド	
6	土師壺	(20.7)			B	普通	にぶい橙	15	カマド	
7	土師壺			(4.8)	AFG	普通	にぶい橙	70	カマド	
8	土師壺	(21.7)			ABF	良好	にぶい橙	40	カマド	口縁部内外面横ナデ
9	須恵壺			(16.0)	AFGK	良好	灰	20	カマド	
10	鉄製刀子	長さ12.9cm		刃長9.1cm	刃幅1.1~1.4cm	背幅0.2cm			覆土	両面 茎を欠く



第48図 第319号住居跡出土遺物

第322号住居跡出土遺物観察表 (第49図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師環	14.0	3.4		ABJ	良好	橙	100	カマド	
2	土師環	14.0	3.7		ABJ	普通	にぶい褐	90	床直	
3	土師甕	(21.8)			AB	良好	橙	15	カマド	
4	土師甕			4.5	ACFGJ	普通	明赤褐	30	覆土	



第49図 第322号住居跡出土遺物

第314号住居跡 (第50・51図)

N-20・21グリッドに位置する。中央部に第87号溝が東西に貫通している。規模は、主軸長東西4.12m、南北3.00m、深さ26cm程を測る。南東隅は床面と5cmほどの段差を持った棚状施設がある。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-90°-Eを指す。

貯蔵穴は、南東隅の棚状施設の西に設けられており、65cm×60cmの歪んだ方形で、深さ55cmを測る。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃烧部は97cm、幅は確認できた55cm程で、深さ10cm程を測る。煙道部は、長さ67cmが確認できた。

遺物は、土師器杯・高台付壺・台付甕、須恵器高台付壺と鉄製刀子の刃部が出土した。

第315号住居跡 (第52・53図)

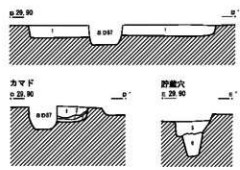
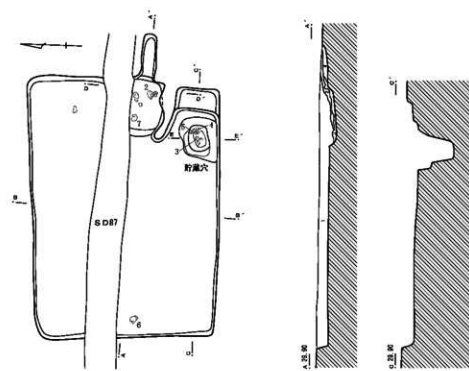
M-21グリッドに位置する。規模は、主軸長東西3.84m、南北3.00m、深さ23cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。東壁・北壁側に棚状施設があり、それを含めた規模は主軸長東西4.22m、南北3.78mとなる。主軸方位は、N-65°-Eを指す。

壁溝は、貯蔵穴部分を除いて全周し、壁溝内に小ピットが検出された。壁溝は、幅17～30cm、深さ2～8cmを測る。小ピットの深さは、10cm程を測る。

貯蔵穴は、南東隅に設けられており、93cm×106cmの不整形台形で、深さ46cmを測る。

カマドは、東壁に設けられている。燃烧部は、76cm×56cm、深さ10cm程を測る。煙道部は、長さ84cmが確認できた。

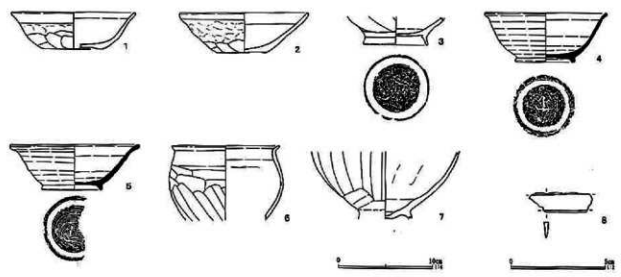
遺物は、土師器杯・甕、須恵器杯・高台付壺が出土した。



- 1 暗褐色土 白色粒多量 赤土粒・黄褐色土少量 炭化物微量
- 2 暗赤褐色土 灰層 (カマド天井跡層上)
- 3 暗褐色土 炭層 赤土粒多量
- 4 暗褐色土 白色粒微量 炭化物・炭土粒多量 (灰道流入上)
- 5 暗黄灰色土 白色粒・黒土粒・炭化物微量
- 6 暗灰褐色土 灰主体 赤土粒微量



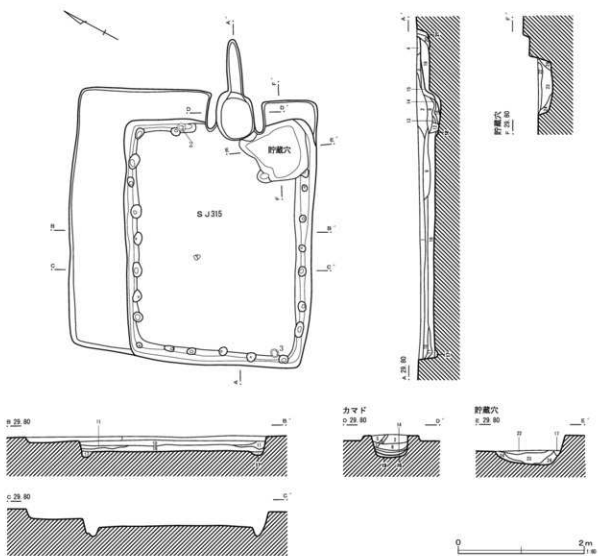
第50図 第314号住居跡



第51図 第314号住居跡出土遺物

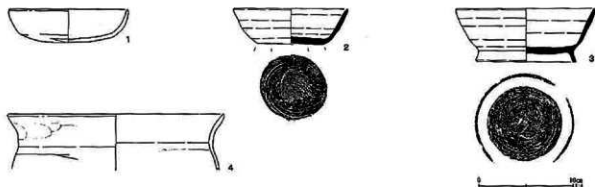
第314号住居跡出土遺物観察表 (第51図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師環	(13.0)	3.9	(6.6)	ABF	普通	橙	30	貯蔵穴	須恵系土師器
2	土師環	13.6	4.2	5.3	ABJ	普通	にぶい橙	100	カマド	
3	土師高台埴			7.0	AB	普通	褐	80	貯蔵穴	
4	須恵高台埴	(13.0)	5.2	6.4	ACJK	普通	灰白	60	貯蔵穴	
5	須恵高台埴	(13.8)	4.8	6.5	ABJ	普通	にぶい黄橙	40	貯蔵穴	
6	土師小型埴	(11.2)			ABF	良好	灰黄褐	45	覆土	
7	土師台付埴				ABC	普通	にぶい黄橙	70	カマド	
8	鉄製刀子	長さ13.31cm	刃幅0.8cm	青幅0.2cm				刃部	覆土	



- | | | | | | |
|---------|------------------------|-------------------|------------------|----------|---------------------|
| 1 暗灰褐色土 | 粘土粒少量 | 炭化物微量 | 黄褐色土ブロック多量 | 13 暗赤褐色土 | 粘土ブロック多量 (カマド天井崩落土) |
| 2 暗黄褐色土 | 炭化物少量 | | | 14 黒色土 | 灰層 |
| 3 暗褐色土 | 粘土粒・粘土ブロック多量 | 炭化物微量 (煙道) | | 15 赤褐色土 | 粘土ブロック主体 (大床面) |
| 4 暗褐色土 | 粘土粒・粘土ブロック多量 (煙突流入の覆土) | | | 16 暗褐色土 | 粘土粒微量 |
| 5 暗黄褐色土 | 粘土粒・炭化物少量 | 黄褐色土ブロック多量 | | 17 暗褐色土 | 灰色粘土との混土 |
| 6 暗褐色土 | 粘土粒多量 | 黄褐色土粒少量 | | 18 暗褐色土 | 粘土ブロック多量 |
| 7 赤褐色土 | 粘土主体 | 黄褐色土粒少量 (焼機土の崩落土) | | 19 暗褐色土 | 炭化物微量 |
| 8 暗黄褐色土 | 炭化物微量 | 黄褐色土多量 | 灰色粘土少量 (カマド焚口覆土) | 20 暗褐色土 | 粘土粒・炭化物微量 |
| 9 暗黄褐色土 | 粘土粒少量 | 黄褐色土ブロック多量 | | 21 暗褐色土 | 粘土ブロック少量 |
| 10 灰褐色土 | 白色粒・粘土粒微量 | 灰色粘土多量 | | 22 貯蔵穴 | 貯蔵穴 |
| 11 暗褐色土 | 粘土粒・灰色粘土少量 | 炭化物多量 | | 23 暗灰褐色土 | 粘土と灰の層 |
| 12 暗褐色土 | 粘土ブロック・黄褐色土ブロック少量 | | | 24 暗黄褐色土 | 粘土粒・炭化物少量 |
| | | | | | 灰色粘土・黄褐色土の混土層 |

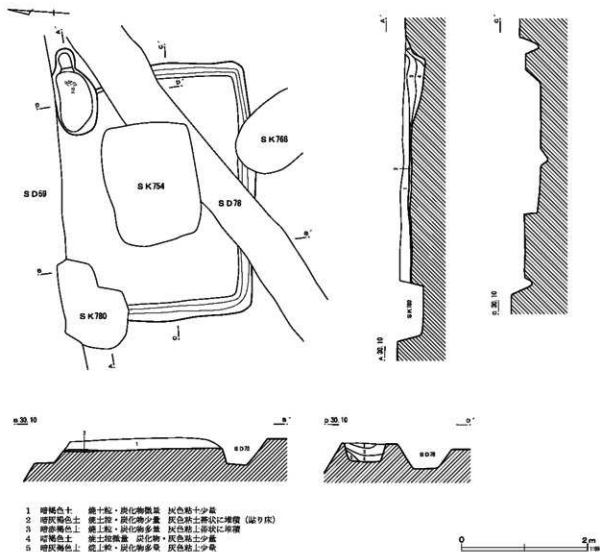
第52図 第315号住居跡



第53図 第315号住居跡出土遺物

第315号住居跡出土遺物観察表 (第53図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師環	(12.4)			A B G	普通	にぶい褐	70	覆土	
2	須恵環	12.1	3.8	7.1	A H J	良好	灰白	95	床直	底部回転糸切り
3	須恵高台埴	(14.8)	5.7	10.6	A J K	良好	黄灰	70	覆土	底部全面へうろ削り
4	土師壺	(22.7)			A B F	良好	橙	15	覆土	



第54図 第316号住居跡

- 1 増粘色土: 焼十瓶・炭化物微量 灰色粘土少量
- 2 増粘褐色土: 灰土質・炭化物少量 灰色粘土層状に堆積(塗り床)
- 3 増粘褐色土: 焼十瓶・炭化物多量 灰色粘土層状に堆積
- 4 増粘色土: 焼土微量 炭化物・灰色粘土少量
- 5 増粘褐色土: 焼土質・炭化物多量 灰色粘土少量

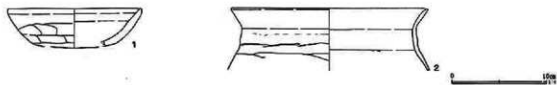
第316号住居跡 (第54・55図)

L-20グリッドに位置する。第754・768・780号土坑、第59・78号土坑と重複し、北半は第59号溝に切れ、そのほかの遺構にも切られていることから、住居跡が最も古い。規模は、主軸長東西4.06m、確認できた南北3.03m、深さ18cm程を測る。主軸方位は、N-82°-Eを指す。

壁溝は、検出した3辺では確認できた。幅20~25cm、深さ10~15cmを測る。

カマドは、東壁に設けられている。燃燒部は、98cm×67cm、深さ22cmを測る。煙道部は、長さ31cmが確認できた。

遺物は、土師器杯・甕が出土した。



第55図 第316号住居跡出土遺物

第316号住居跡出土遺物観察表 (第55図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師杯	(14.0)			A J	普通	褐色	40	カマド	
2	土師甕	(20.7)			A B C F	普通	にぶい橙	25	カマド	

第318号住居跡 (第56図)

L-20グリッドに位置し、下層で検出された。カマドのみの検出で、北西側に第78号溝がある。主軸方位は、N-29°-Eを指す。

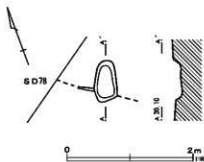
燃燒部は、67cm×38cm、深さ10cm程を測る。

第320号住居跡 (第57・58図)

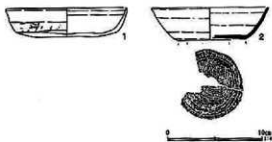
M-20グリッドに位置する。第305・329号住居跡と重複し、南壁は、第305号住居に切れ、第329号住居跡の上部を切っている。規模は、主軸長東西4.90m、南北3.36m、深さ18cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-50°-Eを指す。

カマドは、東壁やや北寄りに設けられている。燃燒部は、40cm×55cm、深さ10cmを測る。煙道部は、長さ60cmが確認できた。

遺物は、土師器杯、須恵器杯が出土した。



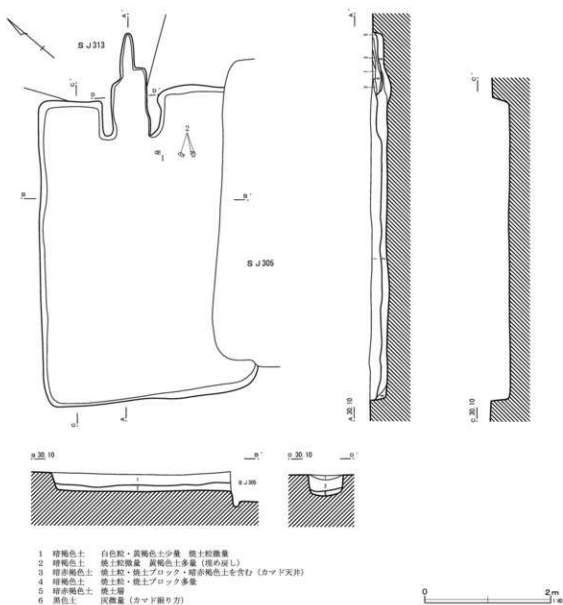
第56図 第318号住居跡



第57図 第320号住居跡出土遺物

第320号住居跡出土遺物観察表 (第57図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師杯	(12.7)	3.0		A	普通	にぶい橙	20	覆土	
2	須恵杯	12.5	3.6	7.1	A H J	良好	灰白	60	覆土	底部回転糸切り、周辺回転へう割り



第58図 第320号住居跡

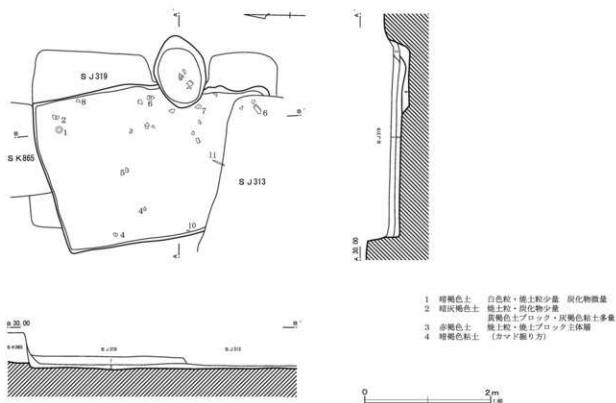
第323号住居跡 (第59・60図)

L・M-20・21グリッドに位置し、下層で検出された。第313・319号住居跡・第865号土坑と重複し、第313号住居跡に南壁、第319号住居跡に上半部が切られ、第865号土坑を切る。規模は、主軸長東西2.55m、南北3.73m、深さ50cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-125°

-Eを指す。

カマドは、東側に設けられている。燃焼部は、112cm×82cmを測り、床面と同じ高さである。

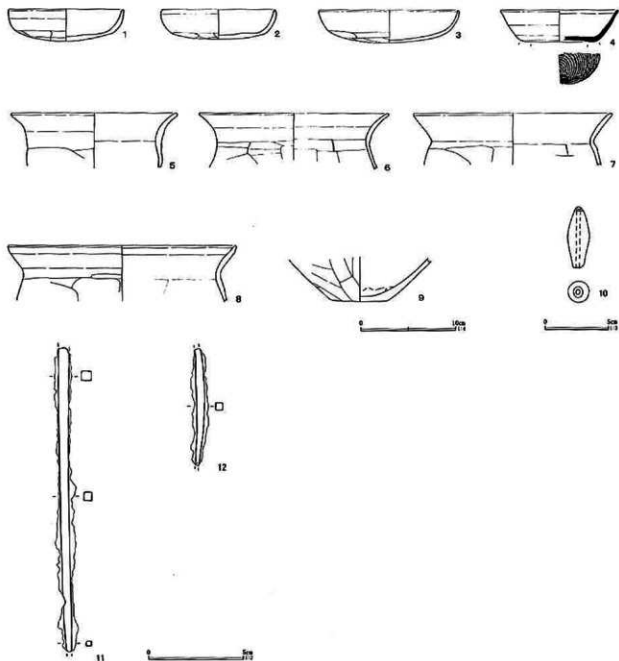
遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏、土鍾と用途不明の角棒状鉄製品が出土した。



第 59 図 第 323 号住居跡

第 323 号住居跡出土遺物観察表 (第 60 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師環	11.9	3.4	10.3	A B	普通	にぶい橙	95	床直	口縁部・底部外面の一部油煙附着 体部内面横ナデ
2	土師環	(12.0)	3.1		A B F	普通	橙	55	床直	
3	土師環	(14.6)	3.5		A B	普通	橙	40	覆土	
4	須恵環	(12.3)	3.4	7.0	A K	良好	灰	25	覆土	体部下端～底部外周へラ削り
5	土師甕	(17.3)			A B C F	良好	橙	15	覆土	口縁部～頸部内面横ナデ
6	土師甕	(19.7)			A B F	普通	橙	15	覆土	
7	土師甕	(20.7)			A B G J	普通	明赤褐	15	覆土	
8	土師甕	(23.9)			A B	良好	橙	15	覆土	
9	土師甕			(6.0)	A B C	良好	黒	20	床直	底部一方向へラ削り
10	土鏝	長さ4.8	径1.65	～1.7	孔径0.4	普通		95	覆土	
11	鉄製角棒品	長さ [12.9] cm		幅0.4	～0.5 cm				覆土	一方が細くなる
12	鉄製角棒品	長さ [6.0] cm		幅3.5	×3.5 cm				覆土	やや湾曲



第60図 第323号住居跡出土遺物

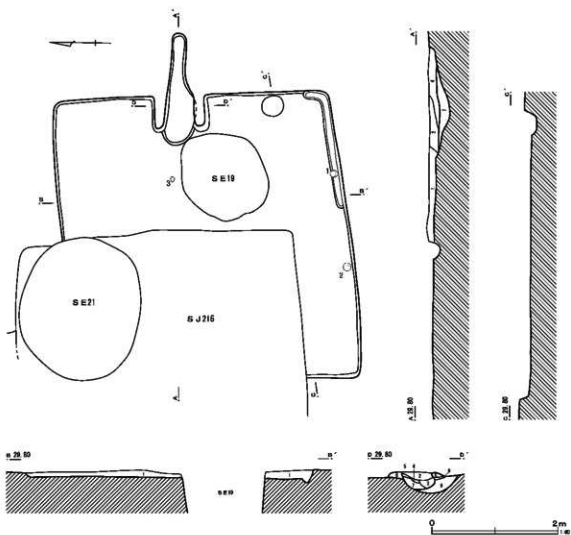
第324号住居跡 (第61・62図)

J-15グリッドに位置し、下層で検出された。第215号住居跡・第19・21号井戸跡と重複し、最も古い。規模は、主軸長は南壁寄りで東西4.56m、南北4.53m、深さ13cm程を測る。平面形は、やや歪んだ方形を呈する。主軸方位は、N-91°-Eを指す。

壁溝は、南東隅にのみ確認でき、幅11~15cm、深さ3~9cmを測る。

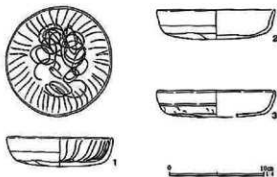
カマドは、東壁やや北寄りに設けられている。燃焼部は、100cm×50cmで床面とほぼ同じ高さである。煙道部は76cm確認できた。

遺物は、土師器片が出土した。



- | | | | |
|---------|---|--------|-------------------------|
| 1 暗灰褐色土 | 白色炭酸塩 炭化物・粘土粒含む | 5 暗褐色土 | 粘土粒多量 |
| 2 暗褐色土 | 黄土粒・塵土ブロック・炭化物・灰色粘土ブロック多量
(カマド穴付近層上) | 6 黄褐色土 | 黄土ブロック含む (カマド掘り方) |
| 3 暗褐色土 | 炭化物・灰多量 | 7 暗褐色土 | 炭化物混 (山カマド掘り方) |
| 4 灰黄褐色土 | 凝成土化 | 8 基色土 | 炭化物・粘土粒・粘土多量混 (田カマド掘り方) |

第61図 第324号住居跡



第62図 第324号住居跡出土遺物

第324号住居跡出土遺物観察表 (第62図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師環	11.2	3.1	9.2	A B F	良好	橙	100	壁溝	内面に放射状・螺旋状の暗文あり
2	土師環	12.5	3.1		A B F J	普通	橙	100	壁溝	
3	土師環	(12.4)	2.8	(10.4)	B J	普通	橙	30	覆土	

第325号住居跡 (第63図)

I・J-15グリッドに位置し、下層で検出された。第215・326号住居跡と重複し、両住居跡に切られている。規模は、主軸長東西3.75m、南北4.80mと推定され、深さ12cm程を測る。主軸方位は、N-97°-Eを指す。

第326号住居跡 (第63図)

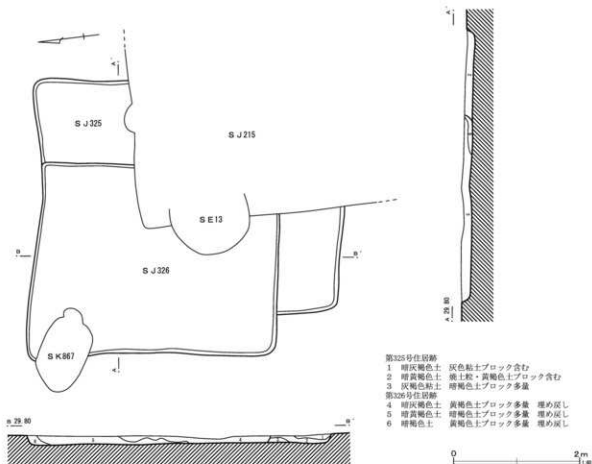
I・J-15グリッドに位置し、下層で検出された。第215・325号住居跡・第867号土坑・第13号井戸跡と重複し、第325号住居跡を切るほかは、他の遺

構に切られている。規模は、主軸長東西3.00m、南北3.93m、深さ14cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-97°-Eを指す。

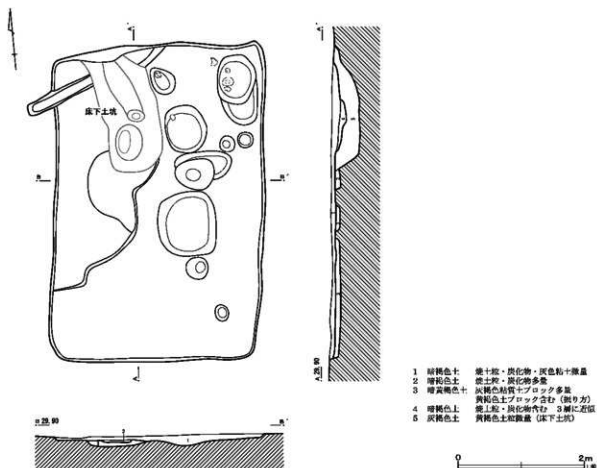
第327号住居跡 (第64・65図)

F・G-15グリッドに位置し、下層で検出された。規模は、主軸長南北5.00m、東西3.31m、深さ9cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-5°-Eを指す。

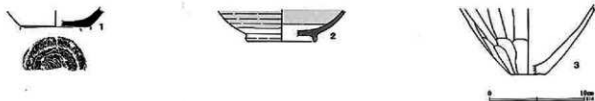
遺物は、須恵器高台付埴、灰釉陶器陶器高台付埴・土師器壺が出土した。



第63図 第325・326号住居跡



第64図 第327号住居跡



第65図 第327号住居跡出土遺物

第327号住居跡出土遺物観察表 (第65図)

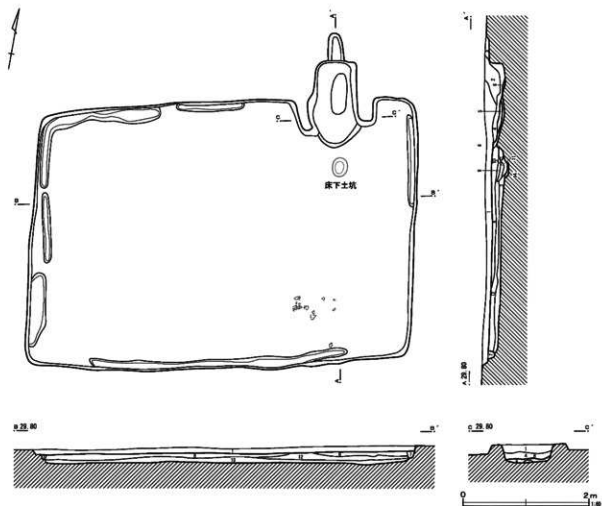
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台壇				ACGJ	不良	灰白	20	覆土	高台部欠損
2	灰軸高台壇			(7.3)	AG	良好	灰白	15	覆土	高台内ヘラ張り 施釉ツケガケ 東義造
3	土師壺			(3.5)	AFJ	良好	黒褐	15	覆土	

第328号住居跡 (第66・67図)

J-17グリッドに位置し、下層で検出された。規模は、主軸長南北4.22m、東西6.05m、深さ11cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-6°-Wを指す。

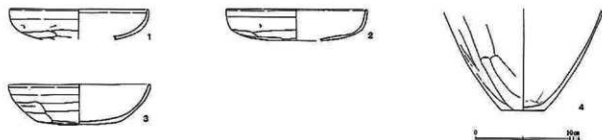
カマドは、北壁で東に片寄って設けられている。燃焼部は、134cm×80cm、深さ20cmを測る。煙道部は、長さ46cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・甕が出土した。



- | | | | |
|---------|------------------------------|----------|---------------------------|
| 1 暗褐色土 | 粘土粒・炭化物微量 | 8 灰褐色土 | 炭化物多量 黄褐色土ブロック混入（貼り床） |
| 2 暗褐色土 | 黄褐色土粒多量 | 9 灰褐色土 | 炭土粒・炭化物含む（床下土坑） |
| 3 暗褐色土 | 粘土粒多量 | 10 黄褐色土 | 炭土ブロック含む（床下土坑） |
| 4 暗赤褐色土 | 粘土粒・炭土ブロック多量（カマド天井崩落土・灰の混入層） | 11 灰褐色土 | 炭土ブロック・炭化物・灰含む（床下土坑） |
| 5 暗灰褐色土 | 粘土粒多量（カマド貼り床） | 12 暗黄褐色土 | 炭土粒・炭化物微量 黄褐色土ブロック含む（張り方） |
| 6 黒色土 | 灰層 粘土粒・炭土ブロック少量 | 13 暗褐色土 | 炭土・炭化物・黄褐色土ブロック含む（張り方） |
| 7 暗褐色土 | 黄褐色土ブロック含む 埋め戻し | 14 黄褐色土 | 炭土粒・炭化物微量（張り方） |

第66図 第328号住居跡



第67図 第328号住居跡出土遺物

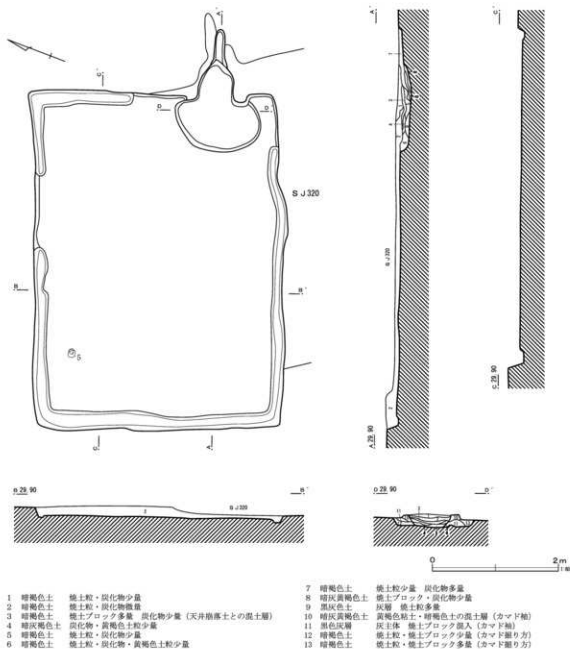
第328号住居跡出土遺物観察表 (第67図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師環	(14.6)			B F	普通	にぶい赤褐	10	覆土	
2	土師環	(15.0)	3.3		A B F J	普通	橙	15	覆土	
3	土師環	(15.0)	4.3	(9.0)	B J	普通	にぶい黄橙	20	覆土	
4	土師壺			(4.6)	A D F J	良好	にぶい橙	15	覆土	

第329号住居跡 (第68・69図)

M-20グリッドに位置し、下層で検出された。
第320号住居と重複し、上部が切られている。規模

は、主軸長東西5.30m、南北3.92m、深さ17cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-65°-Eを指す。



第68図 第329号住居跡

壁溝は一部確認できない部分もあるが、ほぼ全周する。幅14～32cm、深さ1～5cmを測る。

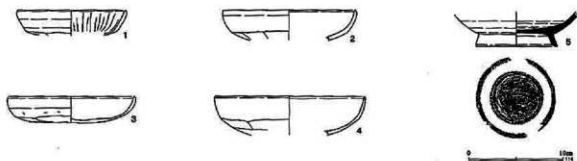
カマドは、東壁で南に片寄って設けられている。燃烧部は、凸字状で144cm、最も幅が広いところで136cm、奥で57cm、深さ15cm程を測る。煙道部は、

長さ50cmが確認できた。

遺物は、土師器環、須恵器高台付碗が出土した。

第331号住居跡 (第70・71図)

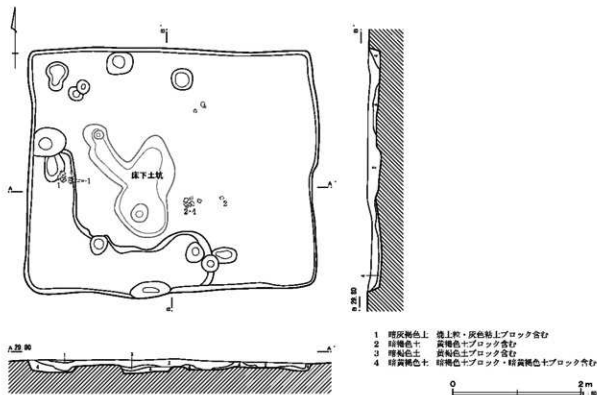
J・K-15グリッドに位置し、下層で検出された。規模は、主軸長東西4.54m、南北3.82m、深さ15



第69図 第329号住居跡出土遺物

第329号住居跡出土遺物観察表 (第69図)

番号	器種	口径	器高	口径	胎土	焼成	色割	残存	出土位置	備考
1	土師環	(11.6)			B J	良好	にぶい橙	20	覆土	体部内外面横ナデ 内面放射状の筋文あり
2	土師環	(14.0)			B J	普通	橙	20	覆土	
3	土師環	13.4	2.8		B F J	不良	にぶい褐	80	覆土	口縁部内外面横ナデ
4	土師環	(16.0)			B J	不良	橙	20	覆土	
5	須恵高台碗			8.5	A F G	良好	灰	70	覆土	



第70図 第331号住居跡